



enfocus
SWITCH 2017

Quick Start Guide

SOFTWAREToo



目次

1.著作権およびサポート規約	4
2.クイックスタートガイドについて	7
3.概要	8
3.1Switch について	8
3.2Switch での作業について	9
3.2.1 フロー	9
3.2.2 インプット	10
3.2.3 プロセス：標準プロセス	11
3.2.4 プロセス：追加プロセス	12
3.2.5 プロセス：コネクション（接続）	14
3.2.6 アウトプット	15
4.入門	16
4.1 インストール、アクティベーション、起動手順	16
4.1.1 インストール	16
4.1.2 アクティベーション	16
4.1.3 起動手順	17
4.2 ワークスペース	18
4.3 始める前に	20
4.4 フローの作成	20
4.4.1 ステップ 1：新規フロー	20
4.4.2 ステップ 2：フローのデザイン	21
4.4.2.1 フローエレメントについて	21
4.4.2.2 フローへフローエレメントの追加	23
4.4.2.3 フローエレメント追加時の警告	24
4.4.2.4 フローエレメントの接続	24
4.4.2.5 フローエレメントのプロパティについて	24
4.4.2.6 フローエレメントプロパティの設定	28
4.4.2.7 フローデザインレイアウトの調整	28
4.4.3 ステップ 3：フローの起動（運用開始）	31
4.4.3.1 フローの保存	31
4.4.3.2 フローの起動	32
4.4.3.3 フローのテスト	35
4.4.3.4 問題のトラブルシューティング	35
4.5 課題 1：ファイルタイプによるファイルの仕分け	40
4.5.1 課題 1：フロー作成手順	40
4.6 課題 2：ファイル名のパターンによるファイルの仕分け	43
4.6.1 課題 2：フロー作成手順	44
5.応用	46
5.1 メタデータとファイル情報を使う	46
5.1.1 サンプルジョブについて	48
5.1.2 サンプルジョブの作成	49
5.1.3 変数を含む条件の指定	50
5.1.4 変数を含むテキストの定義	52
5.1.5 課題 3：PDF ファイルに含まれる情報による仕分け	53
5.1.5.1 課題 3：フロー作成手順	53

5.2 フォルダおよびサブフォルダの操作	55
5.2.1 「ジョブのグループ解除」フローエレメント	56
5.2.1.1 課題 4：複数ファイルのグループ解除および再グループ化	57
5.2.1.2 課題 4：フロー作成手順	58
5.2.2 「階層分析」フローエレメント	60
5.2.3 「階層保管」フローエレメント	62
5.2.4 「階層パスを設定」フローエレメント	62
5.2.5 課題 5：外部サーバー側階層からジョブの受信	64
5.2.5.1 課題 5：フロー作成手順	65
5.3 階層情報を保持したフローの接続	67
5.3.1 課題 6：階層情報を他のフローへ引継ぐ	68
5.3.1.1 課題 6：フロー作成手順	68
6.Switch の周辺情報	71
6.1 Switch アプリケーションコンポーネント	71
6.2 SwitchClient について	72
6.3 SwitchScripter について	72
6.4 Switch Watchdog について	72
6.5 Switch WebServer について	73
6.6 各モジュールがサポートする機能一覧	74
7.New Switch 2017 追加機能	78
7.1 Nwe in Switch 2017	78
7.2 Nwe in Switch 2017 update 1	78
7.3 Nwe in Switch 2017 update 2	79

1.著作権およびサポート規約

著作権

© 2015 Enfocus BVBA all rights reserved. Enfocus は、Esko company の子会社です。

Certified PDF は、Enfocus BVBA の登録商標です。

Enfocus PitStop Pro、Enfocus PitStop Workgroup Manager、Enfocus PitStop Server、Enfocus Connect YOU、Enfocus Connect ALL、Enfocus Connect SEND、Enfocus StatusCheck、Enfocus CertifiedPDF.net、Enfocus PDF Workflow Suite、Enfocus Switch、Enfocus SwitchClient、Enfocus SwitchScripter、Enfocus Browser は、Enfocus BVBA の製品名です。

Adobe、Acrobat、Distiller、InDesign、Illustrator、Photoshop、FrameMaker、PDFWriter、PageMaker、Adobe PDF Library™、Adobe logo、Acrobat logo、PostScript は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Datalogics、Datalogics logo、PDF2IMG™と DLE™は、Datalogics, Inc.の商標です。

Apple、Mac、Mac OS、Macintosh、iPad、ColorSync は、Apple Computer, Inc.のアメリカとその他の国での登録商標です。

Windows、Windows 2000、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10、Windows 2008 Server、Windows 2008 Server R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2 は、Microsoft Corporation の登録商標です。

ここで表示されている PANTONE® Colors は、PANTONE 規格と異なります。正確なカラーについては現行の PANTONE Color の出版物を参照してください。PANTONE®とその他の Pantone, Inc.の商標は、Pantone, Inc.が所有しています。©Pantone, Inc., 2006.

OPI は、Aldus Corporation の商標です。

Monotype は、アメリカ特許商標庁や、他の管轄で登録されている Monotype Imaging Inc の商標です。Monotype Baseline は、Monotype Imaging Inc の商標です。

Quark、QuarkXPress、QuarkXTensions、XTensions、XTensions ロゴは、Quark, Inc.とすべての提携会社 Reg. U.S. Pat. & Tm. Off や、他の国の多くの会社の商標です。

この製品と製品の使用は、U.S.Patent No.5,963,641 Markzware からのライセンスで保護されています。

他のブランドや製品名はそれぞれの所有者の商標もしくは登録商標です。製品やサービスのすべての仕様書、用語、説明は告知や依頼なく変更される可能性があります。

Enfocus Switch サポート規約

【総則】

Enfocus Switch サポート規約（以下「本規約」）は、株式会社ソフトウェア・トゥー（以下「弊社」）が、Enfocus Switch についての Enfocus Switch ユーザーお客様（以下「お客様」）に対して提供するサポートについての基本事項を定めています。お客様は、弊社のサポートを受けるにあたり本規約をご確認いただき、お客様は弊社に電話にてお問い合わせいただいた際には、本規約にご了承いただいているものとみなします。

【サポート範囲について】

Enfocus Switch 及び Enfocus Switch の正規ライセンス番号をお持ちのお客様に以下のサポートを提供いたします。

- ・ Enfocus Switch のインストールなどの導入方法
- ・ Enfocus Switch の基本的な操作方法
- ・ Enfocus Switch の機能説明
- ・ Enfocus Switch の購入に関するご相談、弊社オンラインショップ関連
- ・ Enfocus Switch 導入後に発生した問題についての対策案内

【サポート言語】

サポートはすべて日本語での対応とさせていただきます。

【サポートの形態】

サポートの形態としては、電話による電話サポートとさせていただきます。

【電話サポート】

電話サポートは、以下の時間に実施いたします。

月曜～金曜 10：00～12：00 / 13：00～17：00（土日祝祭日、年末年始及び弊社の休業日を除く）

（お問い合わせの際には製品名とシリアルをお知らせください）

【サポートの対象とならないもの】

以下の場合については、サポート対象外といたします。

- ・ Enfocus Switch 以外の製品の操作方法
- ・ Enfocus Switch に追加する Scripting Module および SwitchScripter に関する操作方法
- ・ コンピュータやスマートフォンなどのハードウェアに関する操作方法
- ・ 弊社及び国内正規代理店以外から購入したライセンスについてのお問い合わせ
- ・ お客様が紛失されたパッケージ版及びライセンスカードのシリアル番号の再発行
- ・ サポートを終了したオペレーティング・システムやサードパーティアプリケーション製品によって発生した問題
- ・ 弊社以外の販売店にて購入された場合の購入のトラブルの場合
- ・ 動作環境外や製品の改造などでご利用頂いた場合
- ・ 天変地異などによる損害の場合

【サポート料金】

- ・ 法人の有償サポートに関しましては、別途定める料金によります。

電話料金またはインターネット接続料金の通信料等については、お客様のご負担とさせていただきます。

【個人情報について】

- ・ お客様の個人情報については、弊社個人情報保護方針に従い、適切に取り扱うものといたします。

【免責事項】

弊社サポートにつきましては、お客様に助言を行うものであり、問題の完全な解決や不具合の補修を保証するものではありません。

製品に関する免責事項につきましては、各製品の使用許諾書に準じるものといたします。

【サポートの途中終了】

弊社はお客様が本規約に違反した場合、もしくは弊社が不適切と判断した場合、お客様に通知することなくサポートを途中で終了させていただく場合がございます。

【本規約の効力】

本規約は、2015年12月7日より有効とします。本規約が改正されたときは、原則、改正規約が公開された時点で、効力が発生するものとします。

【本規約の改廃】

本規約については予告なく変更されることがあります。

2. クイックスタートガイドについて

この Switch クイックスタートガイドは、Switch の基本的なコンセプトの説明と Switch の使い方入門編です。

クイックスタートガイドは、3つのパートで構成されます。

●概要

Switch はどのようなソフトウェアで、どのように動作するものなのか、説明します。はじめて Switch を使う方は是非このパートを参考にしてください。

●入門

インストール方法、ライセンスのアクティベーションなど含め、初めてのフローを設定する手順を説明します。

●操作

サンプルジョブを使い、フォルダや他のフローとの接続など、具体的なトピックについて詳しく解説します。

このクイックスタートガイドには、いくつかの練習用の課題が含まれています。事例ソリューションをチェックする前に、ここに含まれる練習用の課題に挑戦してみてください。

詳細な情報の確認

より詳しい内容については、Enfocus website で公開されている「Switch Reference Guide」を参考にしてください。

<http://www.enfocus.com/en/products/switch/manuals>



Tip : Switch から「**F1**」キーを押すか、ヘルプメニューから「**Switch ヘルプ**」を選び、ヘルプファイルへアクセスすることもできます。

3.概要

Switch はどのようなソフトウェアで、どのように動作するものなのか、説明します。はじめて Switch を使う方は是非このパートを参考にしてください。

3.1 Switch について

Switch は、ファイルの仕分け、ファイル名のリネーム、PDF への変換、PDF のプリフライトチェックなどなど、いくつかの作業や処理の自動化を可能とするアプリケーションです。プロセスのあらゆる側面を自動化することができます。

- Switch は、入力されるファイルを、監視して拾い上げることができます。
- 作業は、いかなる手動作業を介在することなく、自動的に実行されます。
- 処理されたファイルは、適切な場所へ自動的に運ばれます。

Switch に作業を任せると、多くの時間を節約することができます。

モジュール（組み合わせて使う物の1つ）

Switch は、**モジュラー**アプリケーションです。次のように構成されています。

●**コアエンジンモジュール**、Switch の主となる基本的な機能を司るモジュール（ファイルの仕分け、ファイル名のリネーム、ジョブの分割、ジョブの統合などなど）。

●**追加モジュール**、機能の拡張を目的として、必要に応じて追加する事ができるいくつかのモジュール。

例えば、Adobe Creative Suite などのサードパーティー製アプリケーションでの作業を Switch で自動化したい場合、「コンフィグレーターモジュール」のライセンスが必要となります。もし、Switch でデータベースとの連携が必要であれば、「データベースモジュール」のライセンスが必要となります。

詳細な情報の確認

より詳しい内容については、Enfocus website で公開されている「Switch Reference Guide」を参考にしてください。 <http://www.enfocus.com/en/products/switch/manuals>

コンポーネント

Switch のインストーラを実行すると、次のコンポーネントがインストールされます。

●**Switch Server** は、コアエンジンとなり、全てのプロセスをバックグラウンドで実行します。ユーザーインターフェイスは無く、Switch Designer によって起動と終了が行われます。

●**Switch Designer** は、Switch のユーザーインターフェイスとなります。Switch で作業する時に使うコンポーネントです。

●**Switch WebServer** は、ログメッセージを表示して確認する時に、ウェブブラウザから Switch Server へ接続することを可能とします。

●**SwitchScripter** は、Switch で使う切り離されたアプリケーションです。Switch でスクリプトの作成と動作検証を可能とします。但し、「スクリプティングモジュール」のライセンスが有効な環境でのみ、SwitchScripter を使うことができますので、ご注意ください。

SwitchClient は、Switch の外部コンポーネントですので、SwitchClient のインストーラが別に提供されます。SwitchClient はリモートからファイルの送信や状況確認を可能とします。「スイッチクライアントモジュール」のライセンスが有効な環境でのみ、SwitchClient を使うことができます。

3.2 Switch での作業について

Switch は、独自のワークフローをデザインするために、**キャンバス**や**ツール**（フローエレメント）などを含むワークスペースを提供します。

フローを作成するには、右側にあるペイン（小窓）から必要なフローエレメントを選び、キャンバスの中へドラッグ&ドロップします



3.2.1 フロー

次の基本的なフローエレメントでフローが構成されます。

- Switch へファイルまたはフォルダを投入するための「入力フォルダ」
- 1 つまたは複数のプロセスの実行またはタスクの実行（例えば、ファイル名のリネーム、イメージの変換、PDFのプリフライトチェックなどなど）
- 処理済みファイルやフォルダの出力先「出力フォルダ」



各要素は、フローエレメントとして表され、フローエレメントは接続線（矢印）で接続します。矢印の向きによって、ファイルが運ばれる方向が表されます。このサンプルの場合、左から右へ向かって運ばれます。

3.2.2 インプット

Switch は、ファイルとフォルダどちらでも、受け取り処理することができます。

●**ファイルでの入力例**：PDF ファイル、MS Word ファイル、画像ファイルなどなど

●**フォルダでの入力例**：InDesign フォルダ、ページレイアウトファイルや配置画像ファイルを含むフォルダを、1つのジョブとして受け取る。

投入の手法

Switch へ投入する手法をいくつか紹介します

●**手動での投入**：ファイルまたはフォルダを、キャンバス上の「入力フォルダ」へドラッグ&ドロップする。これは、手軽に試験する手法です。

●**自動での手法**：外部サーバー（FTP サーバー、メールサーバー、ネットワークサーバー）から Switch がファイルを自動的にダウンロードするように設定することができます。または、SwitchClient から受け取るように設定することができます。

どのような、入力フォルダを提供したいのかに応じて、適切なフローエレメントを選択する必要があります。

希望の入力方法は？	次のフローエレメントを使います
キャンバス上の入力フォルダへドラッグ&ドロップする (手動での入力)	 フォルダ  注：Switch は、投入されたファイルの物理的な場所を必要とします。 フォルダのアイコンに小さなロックが付いている場合、実際のパスを指定してください。 
ローカルコンピュータまたはネットワークサーバー	 フォルダ（実際のパスを指定してい）  階層分析 ※このフローエレメントは、フォルダ構造を記憶する特殊なタイプです。
FTP での入稿	 FTP 受信
e-mail での入稿	 メール受信
SwitchClient からの入稿	 送信ポイント

ジョブデータ

Switch では、入力ファイルと一緒に情報データを取り扱うことができます。ジョブデータと呼ばれ、MIS や DAM などの外部システムから、ファイル名、ユーザー情報などのメタデータです。ジョブデータの形式は、XML、JDF などのメタデータです。

事例

紙種（コート紙または非コート紙）に応じてインキ量の調整を行うワークフローを、自動化する。MIS にジョブ毎の紙種情報があれば、入力ファイルと一緒に紙種情報を付けます。Switch に入力ファイルが到達したときに、紙種情報を基として、入力ファイルを仕分け、次行程へファイル運びます。



3.2.3 プロセス：標準プロセス

Switch は、受け取ったファイル进行处理するために、多くの**フローエレメント**を提供します。

Switch コアエンジンに**標準搭載のフローエレメント**があります。標準的な作業や処理を実行する、利用価値の高いフローエレメントを次に紹介します。

作業または処理	次のフローエレメントを使います
ジョブのリネームまたはジョブフォルダに含まれるファイルのリネーム（例えば、元のファイル名の先頭や末尾へ追加、置換え）	 ジョブのリネーム
ジョブの仕分け（例えば、リネーム処理後にアルファベット順に仕分けするなど）	 ジョブの仕分け
複数の PDF を 1 つの PDF に統合、または 1 ファイル複数ページの PDF を分割	 PDF を統合  PDF を分割
運ばれてきたファイルやフォルダを ZIP、または ZIP を解凍	 アーカイブ  解凍

他のフローエレメントと同様に、フローエレメントペインから取り出すことができます。



Note : 複数の処理を 1 つのフローにまとめることができます。次のサンプルフローでは、入力された ZIP をはじめに解凍します (解凍フローエレメントを使います) 次に、解凍された複数の PDF ファイルを 1 つの PDF に統合します (PDF を統合フローエレメントを使います)



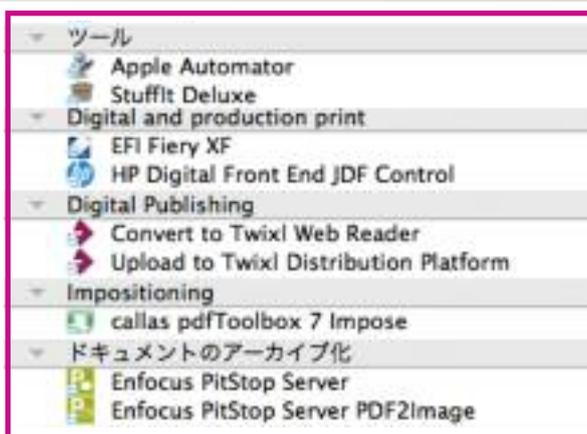
3.2.4 プロセス : 追加プロセス

コンフィグレータモジュールのライセンスが有効な場合、標準的な作業や処理に加えて、**サードパーティ製アプリケーションとの連携**を構築することができます。(例えば : Adobe Creative Suite、Adobe Acrobat Professional、Automation Engine などなど)

Switch フローから、各アプリケーションの**コンフィグレータ**を介して、実際のアプリケーションと接続して連携します。

各コンフィグレータは、フローエレメントペインのコンフィグレータ区分にあります。そして、他のフローエレメントと同様に、フローエレメントペインから取り出して、キャンパス上へドラッグ&ドロップで配置することができます。



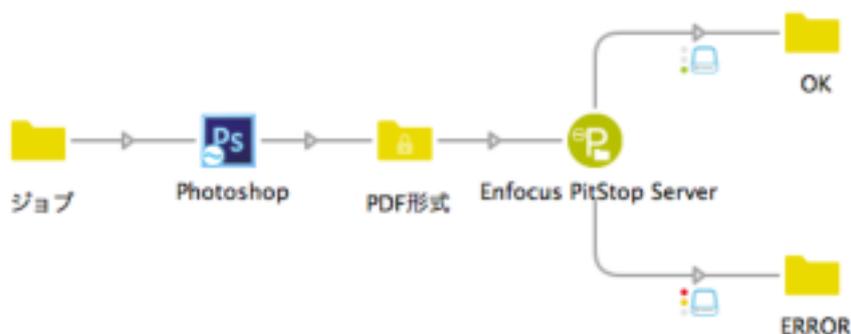


Note : Switch がインストールされているコンピュータで、インストールされてライセンスが有効なアプリケーションのコンフィグレータのみ使うことができます。インストールされていないアプリケーションのコンフィグレータは、表示されないかまたはグレーで表示されます。(コンフィグレータの表示切替は、ペインの右上にある  メニューで変更できます)

どのように動作するのか

コンフィグレータは、Switch フローからサードパーティ製アプリケーションへファイルを渡します。渡されたファイルは、そのアプリケーションで処理され、処理済みファイルを Switch へ返します。必要に応じて、その処理結果ファイルを、さらに別の処理をすることができます。

次のサンプルでは、入力されたファイルを、Photoshop へ渡して画像から PDF へ変換します。続けて変換された PDF を、PitStop Server へ渡して、プリフライトチェックを行います。プリフライトチェックの合否 (OK またはエラー) を仕分けして出力します。



3.2.5 プロセス：コネクション（接続）

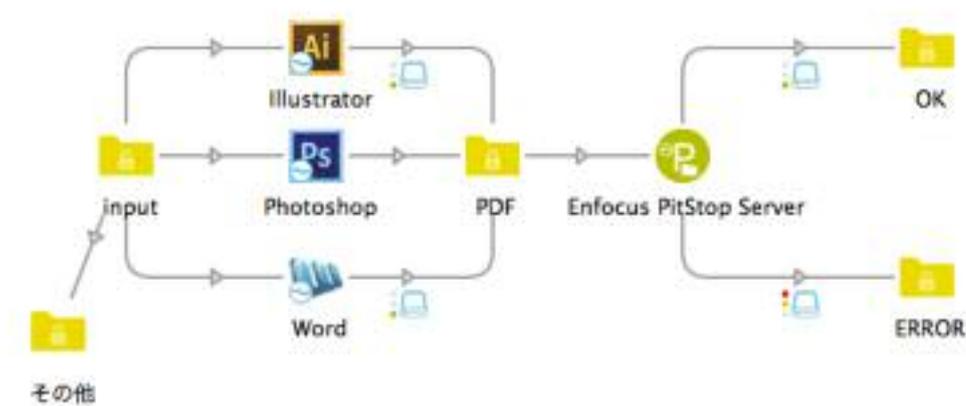
フローエレメントは、処理の実行に使いますが、コネクション（接続線=フローエレメント間を接続する）は、例えばファイルをどの方向など、**フロー（流れ方）をコントロール**することができます。

コネクションは次のように設定することができます。

- ジョブをホールド（一時停止）またはジョブを運ぶ
- ファイルタイプによる仕分け（例えば、PDF または JPEG）、ファイルサイズ、ファイル名のパターン、変数を含む条件（カラーモード、作成されたアプリケーションなどなど）

事例

次のサンプルでは、コネクションは、下流に置かれたコンフィグレータに適切なファイルタイプを受け渡すために、入力ファイルの属性を判断して仕分けするように設定されています。入力されたファイルが、適切なファイルタイプではない場合、「その他」へ運びます。このサンプルでは、「その他」に運ばれたファイルに対しては、何も処理を実行しません。



トラフィックライトアイコン

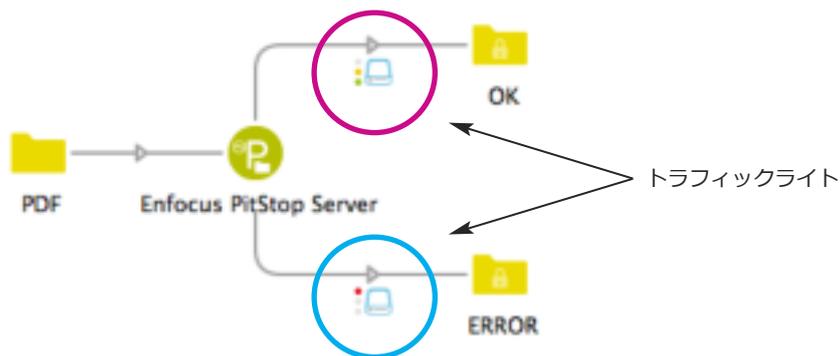
正常に処理されたもの、または処理されなかったものを仕分けすることができます。

例えば、PitStop Server（コンフィグレータエレメント）が、PDFのプリフライトチェックを実行して、プリフライトチェックの結果に応じて、PDFを仕分けすることができます。設定したトラフィックライトの色に応じて、ファイルを運ぶ方向をコントロールすることができます。

- グリーンライトは、処理成功時の出力
- イエローライトは、処理警告時の出力
- レッドライトは、処理エラー時の出力

事例

次のサンプルでは、プリフライトチェックを行い、処理結果が成功した場合（グリーン）と警告があった場合（イエロー）、「OK」へファイルを運び、エラーがあった場合（レッド）、「ERROR」へ運ぶように、トラフィックライトによってコントロールされています。



3.2.6 アウトプット

ファイルが処理された結果、アウトプットフォルダへ運ばれます。ローカルディスク上のフォルダや、ネットワークサーバー側のフォルダなど、または、他の Switch フローのインプットフォルダへ運んだり、外部の RIP や DFE などのプリントコントローラが監視するホットフォルダへ運ぶようにデザインすることができます。また、FTP サーバーやメールサーバーへアップロードすることもできます。

出力ファイルをどのように受け取りたいのかによって、次に紹介するフローエレメントを使い分けることができます。

処理の結果をどのように受け取りたいのか	次のフローエレメントを使います
ローカルコンピュータまたはネットワークサーバー	 フォルダ (実際のパスを指定してい)  階層保管 ※このフローエレメントは、フォルダ構造を記憶する特殊なタイプです。
FTP サーバーへアップロード	 FTP 送信
e-mail での送信	 メール送信

4. 入門

はじめて Switch を使う方は是非このパートを参考にしてください。このパートでは、次のことを説明します。

- インストールとライセンスのアクティベーション手順
- Switch の GUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）について
- 初めて、ベーシックなフローを作成する手順

4.1 インストール、アクティベーション、起動手順

Switch での作業を始める前に、はじめにプログラムのインストールと、お手元にあるモジュールライセンスのアクティベーションを行います。

注：このクイックスタートガイドでは、一般的な手順のみ説明します。

- 1 台のコンピュータに、Switch Server と Switch Designer をインストールすることを、前提として説明します。
- インターネットへアクセスできるコンピュータへのインストールとアクティベーションを、前提として説明します。

この前提条件とは異なるケースは、

詳細な情報の確認

より詳しい内容については、Enfocus website で公開されている「Switch Reference Guide」を参考にしてください。

<http://www.enfocus.com/en/products/switch/manuals>

4.1.1 インストール

必要条件：管理者権限のあるユーザーで Switch をインストールする必要があります。

Switch のインストール

1. インストーラプログラムをインターネットからダウンロードします。インストールするコンピュータのローカルディスクへコピーします。
2. インストーラプログラムをダブルクリックします。
3. 画面に表示される指示に従って進めます。インストールを完了すると、次に Switch ライセンスのアクティベーションへ移ります。

4.1.2 アクティベーション

インストールされた Switch は、お手元にあるライセンスのアクティベーションを行う必要があります。



Note：はじめに Switch コアエンジンのライセンスをアクティベーションする必要があります。次に、他の追加モジュールをアクティベーションしてください。

この手順は、インターネットへアクセスできるコンピュータで、Switch のアクティベーション方法を説明します。



Note : インターネットへアクセスできないコンピュータへ Switch をインストールすることはできませんが、オフラインアクティベーションと呼ばれる方法で、アクティベーションすることができます。(但し、インターネットへアクセスできる他のコンピュータが必要となります) オフラインアクティベーションについては、「Switch Reference Guide」を参考にしてください。

Switch のアクティベーション

1.アプリケーション (Switch.exe または Switch.app) をダブルクリックして Switch を起動します。

Switch は、通常 (初期値)、次のディレクトリにインストールされます。

● Windows : C : ¥ Program Files (x86) ¥ Enfocus ¥ Enfocus Switch <version number>

● Mac OS : / Applications / Enfocus / Enfocus Switch <version number>

2. Switch Server に接続ダイアログにある「ローカル Switch Server に接続」をチェックします。

このダイアログから、別のコンピュータ上にインストールされた Switch Server へ接続することを可能とします。但し、アクティベーションについては、ローカル Switch Server のみ可能です。

3. 「OK」をクリックします。

Switch Designer が開かれ、「Enfocus ソフトウェアアクティベーション」ダイアログが表示します。

4. 右上にある「オフラインモード」チェックボックスがチェックされていないことを確認してください。

5. Enfocus ID とパスワードを入力します。

まだ、Enfocus ID を作成していない場合、「Enfocus ID の作成」をクリックします。

インターネットブラウザが自動的に起動して、Enfocus ID 作成サイトが開かれます。そのサイトで作成した後に、次のステップへ進みます。

6. 購入した製品に付属しているプロダクトキーを入力します。以下の方法で入力することができます。

<プロダクトキーを入力またはプロダクトキーをドロップするにはここをクリック> と書かれたエリアをテキストエリアと呼びます。

- ・テキストエリアへ入力します。
- ・プロダクトキーファイルを、テキストエリアへドラッグ&ドロップします。
- ・「参照」ボタンをクリックしてローカルシステム上に位置するプロダクトキーファイルを指定します。

プロダクトキーの横にグリーンチェックマークが表示された場合、入力されたプロダクトキーが有効であることを意味します。

注意 : グリーンチェックマークが表示されない場合には、プロダクトキーの入力ミスがないか確認してください。

7. 「アクティベート」ボタンをクリックします。

8. 正常にアクティベートされ「閉じる」ボタンをクリックします。

4.1.3 起動手順

ここでは、ローカル Switch Server へ接続する手順を紹介します。

Switch の起動

1.アプリケーション (Switch.exe または Switch.app) をダブルクリックして Switch を起動します。

Switch は、通常 (初期値)、次のディレクトリにインストールされます。

● Windows : C : ¥ Program Files (x86) ¥ Enfocus ¥ Enfocus Switch <version number>

● Mac OS : / Applications / Enfocus / Enfocus Switch <version number>

2.Switch Server に接続ダイアログが表示された場合：



a. 「ローカル Switch Server に接続」をチェックします。

b. 「起動時にダイアログを表示」チェックボックスのチェックを外します。

次回起動時、選択したローカル Switch Server へ自動的に接続します。もし、接続先の変更を希望する場合、ファイルメニューから「Switch Server に接続...」メニューを選びます。再び「Switch Server に接続」ダイアログが表示しますので、そこで接続先を変更することができます。

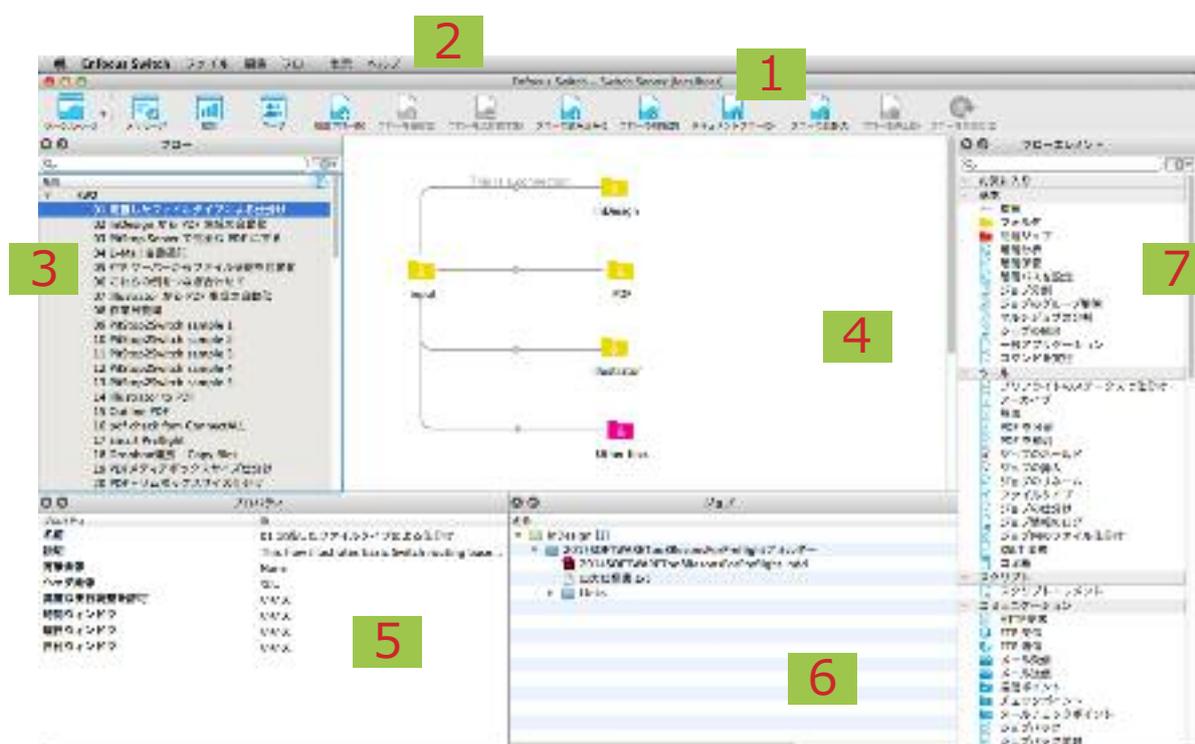
c. 「OK」をクリックします。

この手順で Switch が起動します。

4.2 ワークスペース

Switch Designer 初回起動時に表示されるウィンドウの紹介。

初期設定では、上部に、タイトルバー (#1)、メニュー／ツールバー (#2)、キャンバス (#4) が中央に位置して、その周りの (#3、#4、



#6、#7) が囲むような構成となっています。次に各パートの役割を一覧します。

#1: タイトルバー

現在、どこへアクセスしているのかを示しています。ローカルまたはリモートの Switch Server へアクセスしていることを、Switch Server の名称を表示することで識別することができます。Switch Server の名称を変更することができます。

Windows : 編集 > Preferences > 内部コミュニケーション > Switch Server 名

Mac OS : Enfocus Switch > Preferences > 内部コミュニケーション > Switch Server 名

#2: メニュー/ツールバー

メニュー/ツールバーから、一部の機能を実行しやすくした機能実行ボタンや、他のペイン (小窓) を表示したり、実行命令を出したりすることができます。



・ワークスペースボタンは、「デザインビュー」「検証ビュー」「実行ビュー」の3種のウインドウ構成に切り替えるためのボタンです。それぞれの状況に必要なペインのセットへ瞬時に切り替えることを可能とします。これらの3種の構成をカスタマイズすることができます。「表示」メニュー > 「ペイン表示」から必要なペイン (小窓) を表示または非表示をコントロールすることができます。

- ・「メッセージ」「統計」「ユーザー」ボタンは、画面切替に相当します。
 - ・「メッセージ」ボタンをクリックすると、ログメッセージ画面へ切り替わります。
 - ・「統計」ボタンをクリックすると、入力ファイル进行处理するために費やした時間の統計情報を収集する機能を有効にした場合、収集した情報を基にグラフ化した画面に切り替わります。
 - ・「ユーザー」ボタンをクリックすると、SwitchClient を使ってアクセスするユーザーの管理画面へ切り替わります。そこでは、各ユーザーに対して、リモートアクセスの許可や、送信ポイントやチェックポイントへのアクセスコントロールを実現します。



Note : すべてのボタンがすべての画面表示で使用可能となるわけではありません。上記で説明しているボタンは、デフォルトのワークスペース「デザインビュー」に表示されているものです。

#3: フローペイン

デザインしたフローに名前をつけて保管します。フローペインに保管されているフローが一覧表示されます。保管されたフロー名を選ぶと、画面中央に位置するキャンバス (#4) にデザインしたフローが表示します。

#4: キャンバス

フローを作成 (デザイン) するウインドウです。保管されたフローを表示します。

#5: プロパティペイン

フローペインで選ばれたフローのプロパティ (設定) が集約表示されます。また、各フローエレメントに対するプロパティも同様に集約表示されます。キャンバス上でフローエレメントを選択すると、その選ばれたフローエレメントのプロパティが表示されます。

#6: ジョブペイン

入力されたファイルや、処理が済んだファイルを表示するペインです。キャンバス上で、フォルダを選ぶとその中に含まれるファイルが表示されます。フローエレメントに含まれるファイルリストを表示するペインです。

#7: フローエレメントペイン

フローを作成する上で必要な機能がすべて含まれています。サードパーティ製アプリケーションと連携するコンフィグレータや Switch オリジナルの機能がすべて一覧表示されます。



Note : フローエレメントに一覧される数は、購入した追加モジュールに応じて変わります。例えば、コンフィグレータエレメントは、コンフィグレータモジュールのライセンスがアクティベーションされた場合のみ表示されます。また、実際のサードパーティ製アプリケーションがインストールされている必要がありますので、ご注意ください。

4.3 始める前に

プロセスを自動化する場合、まず作業工程（プロセス）を詳細に分析することをお勧めします。

考えてみましょう：

- どこからファイルまたはジョブをインプット（入力）しますか。
- 受けたファイルまたはジョブをどのように処理（プロセス）していますか。
- 処理したファイルまたはジョブをどこへアウトプット（出力）しますか。



Tip :

- 実際に Switch で設計する前に、処理内容を図解してワークフローを可視化します！
- 1つのプロセス（処理工程）に焦点を当てて小さいワークフローから、設計していくことをお勧めします。まずは、小さなワークフローを打破してみてください。次に小さなワークフローを繋ぎ合わせることによって、デバッグしやすくスムーズに大規模で複雑なワークフローへ拡張していくことが可能です。

4.4 フローの作成

フローを作成するには、次のステップが欠かせません。

1. 「新規フロー」

プロセスの自動化のために「新規フロー」を作成します。白紙の状態から始めます。または、サンプルのフローを基にして作成することもできます。

2. 「フローのデザイン」

キャンパスの上にフローエレメントをドラッグ&ドロップしてデザインしていきます。キャンパス上に配置した、全てのエレメントや接続線に対するプロパティを設定する必要があります。

3. 「フローの起動」

デザインしたフローを保存して、要望の通りの処理結果が得られるまで、テストファイルを使って、テストします。

4.4.1 ステップ 1 : 新規フロー

新規フローを作成するために、フローウィザードに、いくつかの方法が用意されていますが、空白フロー（何も無いところから）から始めることをお勧めします。

空白フローを作成するには

1. 何れかの手順でスタートします。

- 画面上部にあるツールバーにある、「新規フロー」ボタンをクリックします。
- フローメニューから「新規フロー」を選びます。
- フローペイン上で、マウスの右ボタンをクリックして「新規フロー」を選びます。



「フローウィザードへようこそ！」新規フローの作成ウィザードが現れます。

2. 「空白フロー」を選び「次へ」ボタンをクリックします。

3.フローの名前と説明を入力して「次へ」ボタンをクリックします。
 名前は、フローペインに表示され、説明については、プロパティペインに表示されます。
 「前へ」ボタンをクリックすれば、1つ前の入力画面に戻ることができます。

4.フロー作成のために「完了」ボタンをクリックします。
 「完了」をクリックして決定すると、フローウィザードで入力した、フロー名がフローペインに表示され、プロパティペインには、説明が表示され、説明の追加編集やフロー名の変更などを行うことができます。

4.4.2 ステップ 2 : フローのデザイン

ここまでのステップで、フローのデザインが始められる段階へ来ました。

- 1.キャンバスへフローエレメントをドラッグ&ドロップ
- 2.フローエレメントを接続線でつなぎ合わせ
- 3.フローエレメントのプロパティを設定

4.4.2.1 フローエレメントについて

フローエレメントの種類について

フローエレメントペインに有効なフローエレメントが分類されています。

- 「接続」フローエレメントは、特殊なタイプです。他のフローエレメントと接続することができ、ジョブ（ファイルやフォルダ）を運ぶ方向を定義する役割を持ちます。
- 「フォルダ」フローエレメントは、入力されたジョブを運び、処理されたファイルを格納するために使用することができ、一時的保管に使用されるか、または処理が完了したジョブを出力する場として使用されます。
- 「その他のフローエレメント」を使用すると、ジョブを処理することができます。

フローエレメント検索フィールド

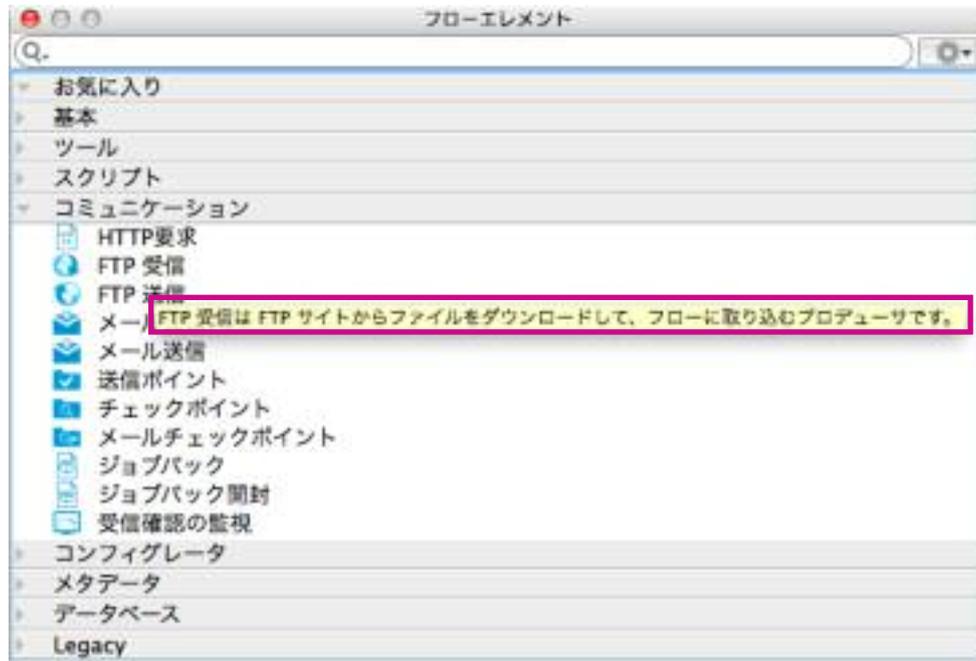
フローエレメントペインの上部にある検索フィールドへ必要としているフローエレメントのキーワードを入力することで、該当するフローエレメントが表示されます。例えば、キーワード「PDF」と入力するとPDFに関連するフローエレメントが一覧され取り出しやすくなります。



ツールチップ (ツールヒント)

これはカーソル (主にマウスポインタ) と連動します。ユーザーがカーソルを何かの項目に合わせたとき、その項目に覆いかぶさるような形で小さな枠が出現して、選択された項目に関する補足情報が表示されます。

Switch は、GUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) として、すべてのフィールドでツールチップを提供します。(一部英語での表記となります)



さらに、どのような機能があるのかコンフィギュレータについての詳細を調べるために、右クリックすることで、「ドキュメント」または「サードパーティアプリケーションの情報」を選ぶと、インターネットで公開されている情報へアクセスすることができます。(インターネットで公開されている情報は、英語での表記となります)



問題ジョブ

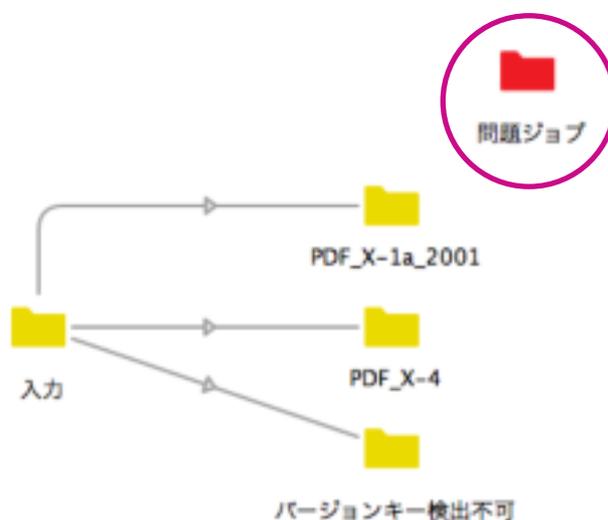
問題ジョブフォルダエレメントは、処理できなかったジョブを格納する特別なエレメントです。設定された条件に該当せずに、行き場を失った場合や、サードパーティアプリケーションのコンフィグレータへ、処理不可能なファイル形式のファイルが転送された場合など、ジョブ側に問題の原因がある場合に、はじき飛ばされる場として各フローに対して1つ「問題ジョブ」フォルダエレメントを配備します。



完全に標準化されたワークフローでは、必要ないケースがあるかもしれませんが、通常、各フローに対して1つ追加しておくことをお勧めします。



Note : 問題ジョブフォルダエレメントは、他のエレメントから接続する必要がありません。エラージョブを別の場所へ運びたい場合や、エラージョブを通知する場合、出力先へ接続することができます。もし、出力先を設定しない場合、ユーザーによって削除または移動されるまで、問題ジョブフォルダの中にエラージョブが停滞（保管）します。



4.4.2.2 フローへフローエレメントの追加

インプットとアウトプットのために、フローエレメントを最低1つずつ追加する必要があります。追加するエレメントは、自動化するプロセスに応じて必要とされます。

インプット/アウトプット

インプット1つ、アウトプット1つの、2つのフォルダエレメントを使ったフローが最も基本的なフローとなります。インプットで受けたジョブをどこへ転送するのかに応じて、フォルダやメール送信やFTP送信などのフォルダエレメント以外の他のエレメントに置き換えることができます。

プロセス

「PDFを統合」や「アーカイブ」などのいくつかのフローエレメントは、プロセスを実行することができます。

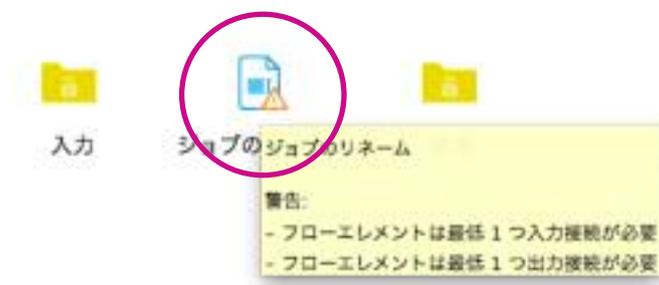
※3.2.3 プロセス：標準プロセスや 3.2.4 プロセス：追加プロセスを参考にしてください。

フローへフローエレメントを追加には、次の手順で行います。

- 利用したいフローエレメントを、フローエレメントペインから探し当てて、キャンバス上の目的の位置へドラッグ&ドロップします。
- キャンバス上の空白な場所で、マウスの右ボタンをクリックします。そこに表示されるメニューにある「追加」から「分類（カテゴリ）」の中から目的のフローエレメントを探し当てて、選択します。

4.4.2.3 フローエレメント追加時の警告

キャンパス上にフローエレメントを追加した際に、警告のアイコンが表示されます。カーソルを追加したアイコン上に重ねると、どのような警告なのかを説明するツールチップが表示されます。



重大な問題が発覚した場合には、警告またはエラーとして詳しい内容を、メッセージペインにメッセージログが出力されます。

4.4.2.4 フローエレメントの接続

次のステップでは、「接続」フローエレメントを使って、キャンパス上のフローエレメントを接続していきます。キャンパス上に既に置かれている2つのフローエレメントを接続するには、次の手順で行います。

- フローエレメントペインから「接続」アイコンをドラッグして1つ目の開始フローエレメント上にドロップします。次に2つ目のフローエレメントをクリックします。
- 1つ目の開始フローエレメントをダブルクリックします。次に2つ目のフローエレメントをクリックします。
- 1つ目の開始フローエレメントのアイコン上でマウスの右ボタンをクリックして、表示されたメニューの中から「接続開始」を選びます。次に、2つ目のフローエレメントをクリックします。

結果、2つのフローエレメントが接続されます。

4.4.2.5 フローエレメントのプロパティについて

キャンパスにフローエレメントを配置し、接続した後、各フローエレメントのプロパティを設定する必要があります。

プロパティペイン

プロパティペインでは、選択されているフローエレメントに対するプロパティ項目がリスト表示されます。それぞれ、フローエレメントやタイプによって、設定可能なプロパティ項目が異なります。

例えば、「FTP 受信」には、FTP サーバーを特定するためのプロパティが設けられているのに対して、フォルダエレメントには、フォルダの位置を指定するためにパスを指定するプロパティが設けられています。

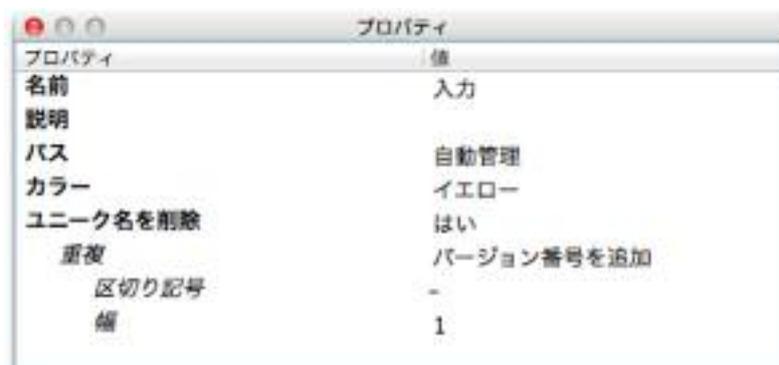
このように、接続するエレメントが変わればプロパティ項目も変化します。

例として、「FTP 受信」フローエレメントのプロパティを紹介します。





例として、「フォルダ」フローエレメントのプロパティを紹介します。



Tip :

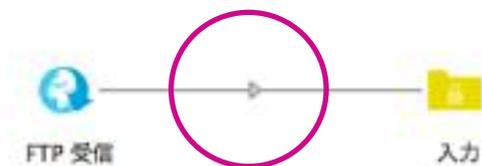
各プロパティ項目に対するツールチップが表示されます。参考にしてください。

既定値

Switch は、プロパティを既定値で埋めています。但し、送受信に関する固有の値（FTP/電子メールサーバーのアドレス、ユーザー名とパスワード、電子メールアドレスなど固有の値）については、既定値が自動的に設定されませんので、ユーザーが指定する必要があります。

フィルター

例として「接続」フローエレメントのプロパティを紹介します。

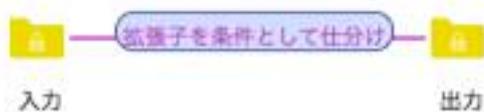


プロパティ	値
名前	
説明	
角度	0
カラー	ブルー
ジョブをホールド	いいえ
これらのジョブを含める	すべてのジョブ
これらのジョブを除外する	ジョブなし
対象フォルダ	すべてのフォルダ
対象外フォルダ	フォルダなし

接続のプロパティでは、条件を設定してフィルターをかけることを可能とします。例えば、対象外のジョブを設定して、対象とするジョブだけ通す設定など、「接続」フローエレメントで、ジョブの流れ方をコントロールすることができます。フィルターのプロパティでは、ファイルの仕分け、ファイル形式による仕分け、ファイル名のパターンによる仕分けなど条件を指定することができます。次の図を参考にしてください。

プロパティ	値
名前	
説明	
角度	0
カラー	ブルー
ジョブをホールド	いいえ
これらのジョブを含める	すべてのジョブ
これらのジョブを除外する	その他のジョブ
対象フォルダ	ファイルタイプの指定
対象外フォルダ	ファイルパターンの指定
	正規表現の指定
	変数を含む条件の指定
	スクリプトの式を指定

例として、接続のプロパティを使った仕分けフローを紹介します。



プロパティ	値
名前	拡張子を条件として仕分け
説明	ここでは、拡張子が「.pdf」であるジョブを通します。その条件を満たさないジョブは通しません。
角度	0
カラー	マゼンタ
ジョブをホールド	いいえ
これらのジョブを含める	ファイルタイプを指定
これらのジョブを除外する	ジョブなし

この例では、PDF ファイルのみ「出力」フォルダへ運びます。その条件を満たさないジョブは、「問題ジョブ」フローエレメントへ転送される結果となります。あるいは、もう1つ「出力」フォルダを設けて、PDF 以外のファイルを運ぶ設定にすることができます。2つ目の出力フォルダと接続する「接続」フローエレメントの「これらのジョブを含める」プロパティ値には、「その他のジョブ」を設定する必要があります。

既に定義されているファイルタイプを確認するには、「これらのジョブを含める」プロパティ値から「ファイルタイプを指定」をクリックして、ポップアップするダイアログボックスから「ファイルタイプを指定」を選ぶことで、確認することができます。



Tip :

「接続」フローエレメントのプロパティの「名前」に、設定した条件を入力しておくと、一目で設定されている条件が、キャンバス上で見えるのでとても便利です。

ジョブをホールド

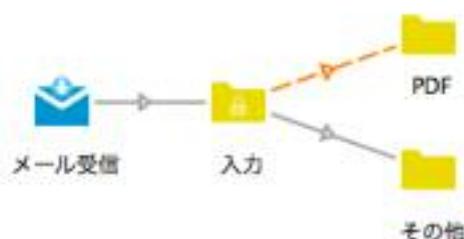
「接続」フローエレメントのプロパティの「ジョブをホールド」は、その名の通り、流れてくるジョブを一旦停止（せき止める）ことができます。この結果、1つ前のフォルダフローエレメントに停滞します。

この手法を使うと、流れ着いたファイルに保有されている、可変の変数を確認することができるため、ワークフローをデザインする段階でも便利です。



Note :

もし、「接続」フローエレメントが「ジョブをホールド」と設定されている場合、次の図のように、接続線がオレンジの破線で表示されます。



4.4.2.6 フローエレメントプロパティの設定

フローエレメントのプロパティの変更

1.まず、プロパティを変更したいフローエレメントを選択します。



Note :

もし、複数のフローエレメントを同時に選択した場合、共通のプロパティを変更することができます。共通ではないプロパティは個別に設定してください。

選ばれたフローエレメントのプロパティは、プロパティペインに表示されます。

2.変更したいプロパティをクリックします。

選択したプロパティに応じて、テキストボックス、ボタン、ドロップダウンメニューが表示します。

3.必要な変更を行います。変更した箇所は即時適用されます。

•テキストボックス

テキスト入力フィールドへテキストを入力することができます。

•ドロップダウンメニュー

選択肢がドロップダウンメニューに表示されますので、選択します。

•プロパティ編集ダイアログ



ポップアップしたプロパティ編集ダイアログに変更を加えて「OK」ボタンをクリックして適用します。

•ポップアップリスト



1.ポップアップリストからメニューを選択します。

2.選択したメニューに応じてプロパティ編集ダイアログが表示され、編集します。



4.4.2.7 フローデザインレイアウトの調整

フローエレメントを繋ぎ合わせてデザインしたフローを、わかりやすく整理されたデザインにするために、Switch にはいくつかの調整機能を提供します。

- フローエレメントの整列（複数のエレメントを水平／垂直に整列する）
- 配置レイアウトに合わせて接続線の調整（接続線の角度を調節する）

•接続線やフォルダの色を変更することができます。例えば、ローカルフォルダとネットワークフォルダを色分けしておくことで、視覚的に判別しやすくなります。

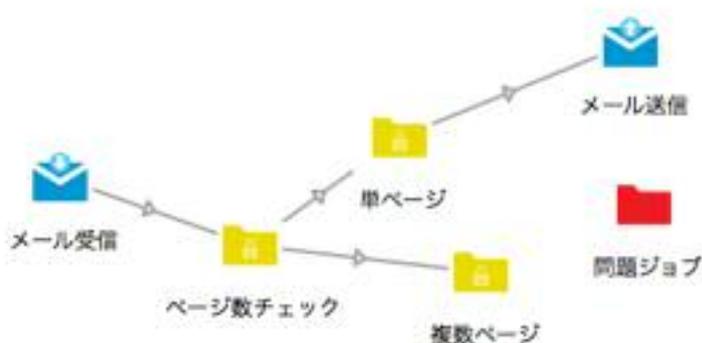


Tip :

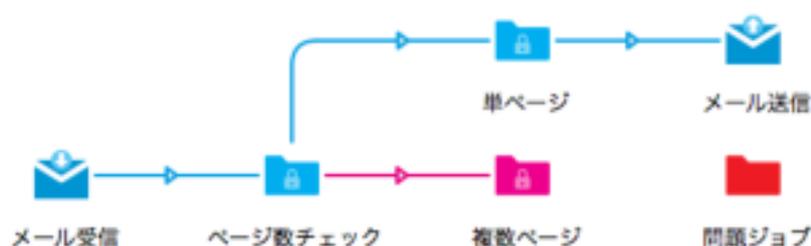
各フローエレメントには、それぞれ意味のある名前をつけることをお勧めします。また、重要な箇所などは、色を変更して強調しておくことで、フローをデザインする側の意図を、使うユーザー側に伝えやすくなります。

例えば

【 Before 】 デザインを整理するまえのフロー



【 After 】 デザインを整理したフロー



この例のように、問題のないジョブが運ばれる道筋を、ブルーカラーで統一することで、ユーザーが視覚的に判断しやすくなります。

フローエレメントを水平に整列する

フローエレメントを水平に整列するには

1. 整列させたい複数のフローエレメントを選択します。

2. 次の手順で整列します。

- Windows OS : 編集メニューから「水平方向に整列」を選びます。または、キーボードの「**Ctrl**」 + 「**Shift**」 + 「**H**」キーを押す。
- Mac OS : 編集メニューから「水平方向に整列」を選びます。または、キーボードの「**Command**」 + 「**Shift**」 + 「**H**」キーを押す。

フローエレメントを垂直に整列する

フローエレメントを垂直に整列するには

1. 整列させたい複数のフローエレメントを選択します。

2. 次の手順で整列します。

- Windows OS : 編集メニューから「垂直方向に整列」を選びます。または、キーボードの「Ctrl」 + 「Shift」 + 「V」 キーを押す。
- Mac OS : 編集メニューから「垂直方向に整列」を選びます。または、キーボードの「Command」 + 「Shift」 + 「V」 キーを押す。

接続のレイアウトを調節する

既定では、2つのフローエレメントが直線で繋が合います。けれども、視覚的に整理されたデザインにするために、レイアウトを調節することができます。

1. 接続線を直角に描くには

a. 接続線を選択します。

b. 次のいずれかの手順

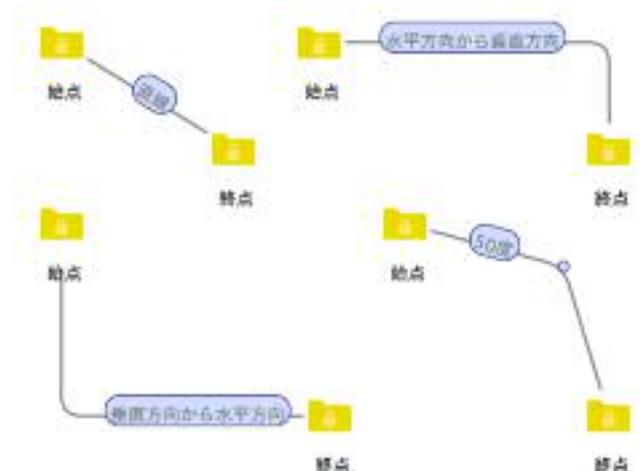
- 接続線の上でマウスの右ボタンをクリックします。「水平方向から垂直方向」メニューまたは「垂直方向から水平方向」メニューを選びます。
- プロパティペインの「角度」フィールドの値を「90」または「-90」と入力します。

2. 接続線を直角ではない角度に描くには

a. 接続線を選択します。

b. 次のいずれかの手順

- マウスのカーソルを、ドラック用ハンドル（ブルーの○）が表示されるように、接続線の上に移動します。ドラック用ハンドルが表示されたら、ハンドルをドラックして角度を自由に調節します。
- プロパティペインの「角度」フィールドの値を「45」や「50」など任意の角度を入力します。



フォルダと接続線の色を調節する

フォルダや接続線を視覚的に見分けやすくするために、ネットワークフォルダとローカルフォルダを色分けすることができます。既定では、フォルダはイエローで、接続線はグレーです。

フォルダや接続線の色を調節するには、

1. 接続線またはフォルダを選択します。



Note :

色を変更する場合、同時に接続線とフォルダを選ばないでください。

2. マウスの右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを開きます。

3. 「色を選択」メニューから、希望の色を選びます。

次の色を選ぶことができます

• 接続線の色：グレー（既定色）、イエロー、グリーン、シアン、ブルー、マゼンタ、オレンジ色

• フォルダの色：イエロー（既定色）、オレンジ色、グリーン、シアン、ブルー、マゼンタ

あるいは、プロパティペインで色を指定することができます。接続線にオレンジ以外の色を指定していた場合でも、ジョブをホールドしたときに接続線の色は、オレンジ色が使われることを覚えておいてください。例えば、接続線に対してグリーンを指定しています。その接続で、ジョブをホールドに設定した場合に、オレンジ色の破線に変わります。ジョブをホールドをリリース（解除）すると元の色であったグリーンへ戻ります。

4.4.3 ステップ 3：フローの起動（運用開始）

フローエレメントの設定が終われば、保存することができ、期待するものなのかどうかを確認するために、起動してフローの試験を行えます。期待通りでない場合、Switch は、何が起きているのかを調査するためのツールをいくつか提供していますので、問題を解決することができます。

4.4.3.1 フローの保存

フローペインに、保存されていないフローは、アスタリスク「*」付きの斜体イタリックで表示されます。

フローを保存するには

1. フローペインで保存したいフローを選択します。複数のフローを同時に選択して保存することもできます。

2. 次のいずれかの手順

• 画面の上部に位置するツールバーにある「フローを保存」ボタンをクリックします。



• 「フロー」メニューから「フローを保存」を選びます。

フローを保存すると、フローペインに表示されていたアスタリスク「*」付きの斜体イタリックから、正体の表示に変わります。



Note :

フローのデザインを変更するたびに、アスタリスクが付きます。この時、保存するのではなく、変更する前の状態へ戻したい場合には、ツールバーにある、「フローを元に戻す」ボタンをクリックすると、前回の保存以降に変更された箇所が、元の保存状態まで戻されます。



4.4.3.2 フローの起動

ジョブの処理を開始するためには、フローの起動が必要です。

フローを起動するには

1. フローペインで、起動したいフローを選択します。

2. 次のいずれかの手順

- 画面の上部に位置するツールバーにある「フローの起動」ボタンをクリックします。
- 「フロー」メニューから「フローの起動」を選びます。
- フローペインで、選択したフロー名をマウスの右ボタンでクリックしてコンテキストメニューから「フローの起動」を選びます。
- フローペイン上部に位置する、 歯車のアイコンから、「フローの起動」を選びます。
- フローペインで、選択されているフロー名をダブルクリックします。(同時に複数のフローを起動する場合には、この手法ではできません)

保存されていないフローを起動すると、保存することを促す警告がポップアップします。その場では保存したくないケースは、「キャンセル」ボタンをクリックします。



フローの起動が正常に実行された場合、キャンバスの背景はグレーに変化し、フローペインのフロー名の横にグリーンアイコンが表示されます。フローは起動に成功して、入力されるジョブを待機します。



4.4.3.3 フローのテスト

インプットのテスト

フローをテストするには、まずは Switch への入力方法を決めてください：

「フォルダ」エレメント、「メール受信」エレメント、「FTP 受信」エレメント、「送信ポイント=SwitchClient」エレメント、

•入力方法としてフォルダエレメントを選んだ場合

- フォルダエレメントのプロパティにある「パス」に、実際のフォルダパスを指定します。そこで指定したフォルダが「入力フォルダ」となります。

- フォルダエレメントのプロパティにある「パス」に、実際のフォルダパスを指定しない場合、キャンパス上の入力フォルダエレメント上に、ローカルコンピュータに位置するファイルやフォルダを、ドラック&ドロップしてテストします。



Note :

パスを指定しない場合、プロパティの「パス」の値は「自動管理」となります。(これが既定値です)

自動管理のフォルダは、Switch によって、アプリケーションデータのルートフォルダの中に自動的に作成されます。そのアプリケーションデータフォルダは、「Preferences」メニュー>アプリケーションデータ>アプリケーションデータのルートで指定されています。ご確認ください。

- 入力方法として「メール受信」または「FTP 受信」を選んだ場合、メールまたは FTP サーバーを指定することになります。予め、メールサーバーまたは FTP サーバーにアクセスするための情報を準備してください。

- 入力方法として「送信ポイント」を選んだ場合、SwitchClient を使ってジョブを入力することになります。

入力方法が決まり正しく設定されたフローを起動すると、Switch は処理（プロセス）を開始します。

処理の情報

フローが動作している間、Switch は、ジョブの取扱状況の情報を提供します。

- フォルダに入力されたジョブの数量は、キャンパス上の各フローエレメントに受け取ったジョブ数量を表示します。数量が見えることで、進捗状況や停滞している数量を目視することができます。

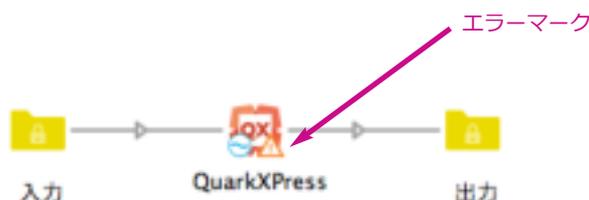
もしも、1つのフォルダに 100 以上のジョブが含まれている場合、Switch は具体的な数量を表示せずに、無限大の記号「∞」を表示します。



問題ジョブと問題の処理は、下図のようにエラーマークアイコンとなります。



問題ジョブにエラーマークが付いているときは、問題となったジョブが含まれています。標準化されたフローで、条件が合致していないジョブが検出された場合に、はじき飛ばされます。



プロセス用のフローエレメントの横にエラーマークアイコンが付いているときは、そのエレメントに問題があることを示しています。例えば、ネットワークエラーが発生していてジョブを送信できない場合や、フローエレメントのプロパティが不正である場合などが考えられます。プロパティ値に間違いがある場合や、未設定の項目がある場合にエラーマークアイコンが付きますので、プロパティを正しく設定してください。また、このエラーマークアイコンが付いたままですと、フローを保存することができないため、フローを起動することもできません。

フォルダのフローエレメントの横にエラーマークアイコンが付いているときは、パスで指定された実際のフォルダへのアクセスに不具合が生じています。例えば、実際のフォルダを誤って削除してしまった。または、ローカルネットワークに障害が生じて、ネットワーク共有フォルダへアクセスできない状況。このようなケースが考えられます。

アウトプット

問題が起きた場合の対処

1. 「フローを停止」ボタンをクリックして、起動中のフローを停止します。
2. フローエレメントのプロパティを見直す。
3. 再びフローを起動してみる。変更を加えた処理結果を確認する。



Tip :

問題の箇所が特定できない場合、「4.4.3.4 問題のトラブルシューティング」を参考にしてください。

4.4.3.4 問題のトラブルシューティング

問題が起きた場合、次のペインを確認してください。



Tip :

ワークスペースボタンから「実行」を選ぶと、問題の調査に役立つ3つのペインが表示されます。または、「表示」メニューから「実行」を選びます。(ダッシュボード、進行状況、メッセージ、この3つのペインが表示します)

メッセージペイン

このペインは、Switch でプロセスを実行したすべての概要を提供します。

Warnings (警告) はイエロー、error (エラー) はレッドで表示します。

メッセージは大量に収集されますので、条件を設定するフィルター機能が設けられていますので、大量のメッセージを絞り込むことができます。ログメッセージにフィルターをかけるためには、メッセージペイン上部に位置するフィールドに条件を入力する、または、ドロップダウンメニューから値を選択することができます。(メッセージの確認が終わったら、フィルターの値をクリアするのを忘れないでください)



タイムスタンプ	タイプ	モジュール	フロー	フローエレメント	プリフィックス	ジョブ	メッセージ
2015/12/01 19:21	エラー	InDesign	02 InDesign から パッケージ	InDesign	004WX	12	ジョブ「004WX 12」をフォルダ「/Users
2015/12/01 19:10	情報	Control	02 InDesign から パッケージ				ジョブ「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/01 19:10	情報	Control	02 InDesign から パッケージ				フロー「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/01 19:20	情報	Control					フロー「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/01 19:21	情報	Control	02 InDesign から パッケージ				フロー「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/01 19:21	情報	Control	02 InDesign から パッケージ				フロー「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/01 19:24	情報	Control	02 InDesign から パッケージ				フロー「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/01 19:25	情報	Control	02 InDesign から パッケージ				フロー「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/01 19:25	情報	Control	02 InDesign から パッケージ				フロー「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/01 19:26	情報	Control					フロー「02 InDesign から パッケージ」の読...
2015/12/02 9:36	情報	Control					「InDesign」コンフィギュレータアプリケーション
2015/12/02 9:36	情報	Control					取り込まれたフロー: 00_APsystem_sort (v1...
2015/12/02 15:42	情報	Control					「InDesign」コンフィギュレータアプリケーション

このペインを表示するには、

「表示」メニューから「ペイン表示」の中から「メッセージ」を選びます。

複数のメッセージペインを表示することができます。「メッセージ」「メッセージ 2」「メッセージ 3」この3つのペインを同時に表示することができます。例えば、1つは、エラーだけを絞り込み、1つは、FTP に絞り込んだメッセージ、最後にすべてのメッセージを表示する。このように、追加のメッセージペインを表示するには、

「表示」メニューから「ペイン表示」の中から「メッセージ 2」または「メッセージ 3」を選びます。



Note :

Web ブラウザで、ログメッセージを見ることもできます。

ツールバーにある「メッセージ」ボタンをクリックすると、Web ブラウザが起動してログメッセージを表示します。または、「表示」メニューから「メッセージ」を選びます。



進行状況ペイン

このペインは、Switch Server にて、実行中の処理の進行状況を表示します。例えば、FTP サーバーからファイルをダウンロード中や、PDF ファイルのプリフライトなど実行中の処理がどの程度進行しているのか状況を表示します。

フロー	エレメント	プロセス	アプリアクセス	ジョブ	経過時間	状況
05 FTP サーバーからファイ...	FTP 受信	FTP 受信		PDF_IMAGE_0023.pdf	00:00:12	50.0 MG 転送済み

このペインを表示するには、

「表示」メニューから「ペイン表示」の中から「進行状況」を選びます。

ダッシュボードペイン

このペインは、動作中に問題が発生した物だけを収集して表示します。

タイムスタンプ	モジュール	フロー	エレメント	ジョブ	メッセージ
2015/12/03 14:20	解決	P33_チュートリアル14 Flow	解決	123.pdf	ジョブの解決に失敗「123.pdf」
2015/12/03 14:23	解決	P33_チュートリアル14 Flow	解決	123 のコピ...	ジョブの解決に失敗「123 のコピー 10.pdf」
2015/12/03 16:27	FTP 受信	05 FTP サーバーからファイ...	FTP 受信		FTP サーバからファイルリストを入力でき...

このペインを表示するには、

「表示」メニューから「ペイン表示」の中から「ダッシュボード」を選びます。

ダッシュボードペインの情報は動的に更新されます。問題項目は検出するとすぐに表示され、問題が処理、改善されると消えます。ダッシュボードペインは、現在実行しているフローの問題を表示します。メッセージペインと比較すると、メッセージペインの方は過去に発生した事柄を表示します。さらに、ダッシュボードは、問題のタイプによって適切なアクションを実行することが可能です。（問題ジョブの再実行など）

問題カテゴリ

Switch は、問題ジョブ（ジョブ自体の問題で処理できない問題）と問題プロセス（処理側による一般的な問題）に分けて認識します。問題プロセスは、さらにファイル転送と外部プロセスに分類されます。

問題ジョブ

他のジョブに影響しない問題でプロセスに失敗。手動でジョブを処理する必要があります。その他のジョブは継続できます。問題ジョブは、問題ジョブフォルダに移動します。

ファイル転送

コミュニケーションの問題によってメール、FTP またはローカルネットワークの処理でジョブを転送できない。手動で問題を修正するか、自動的に復旧するのを待つこととなります。問題が改善されるまで、プロセスの前でジョブが留まります。

外部プロセス

ビルドインツール（圧縮ツールなど）、スクリプト、コンフィグレータ管理下のサードパーティ製アプリケーションにおいて処理に問題が発生した場合、ジョブの処理を続行することができません。手動によって問題を修正する必要があります。問題が改善されるまで、プロセスの前でジョブが留まります。

コラム

ダッシュボードペイン内のコラムについて説明します。コラムヘッダはリサイズまたはドラッグして順番変更することができます。

コラム	説明
タイムスタンプ	問題を検出した時刻
モジュール	問題が発生した Switch モジュール（Control など）またはフローエレメントのタイプ
フロー	問題が発生したフローの名前
フローエレメント	問題が発生したフローエレメントの名前
ジョブ	問題ジョブまたは問題が発生したジョブの名前
メッセージ	問題の説明するメッセージ

問題の検証

ダッシュボードペインは、次のコンテキストメニューによって問題を検証することができます。

•フローエレメントを表示

選択された問題アイテムにリストされるフローとフローエレメントをキャンバス上で選択します。

•ジョブを表示

現時点で選択された問題アイテムにリストされるフローとフローエレメントをキャンバス上で選択します。ジョブペインに参照フォルダを表示させ、それによってジョブを選択します。

問題の再実行

ダッシュボードペインは、コンテキストメニューから問題ジョブの再実行を指示することができます。Switch は、ジョブを問題ジョブフォルダに移動する時、そのジョブの元々あった位置を内部ジョブチケットに記録します。これにより、問題ジョブを元の位置に戻すことを可能にし、そのジョブの履歴（内部ジョブチケットに記録されている）を失わずに、前回失敗した処理を再実行することができます。このジョブを戻す移動のプロセスが「ジョブの再実行」です。

- アイテムの再実行 選択した列のジョブまたは関連するプロセスを再実行します。
- グループの再実行 グループ列の場合、関連するグループのアイテムすべてを再実行します。
アイテム列の場合、選択した列に含まれるカテゴリのアイテムすべてを再実行します。
- カテゴリの再実行 カテゴリ列の場合、関連するカテゴリのアイテムすべてを再実行します。グループまたは 0 アイテム列の場合、
選択した列に含まれるカテゴリのアイテムすべてを再実行します。



Note :

問題ジョブフォルダ内のジョブとそのファイル名（ユニークプリフィックス名とファイルの拡張子を含む）は、そのままにしてください。もしその位置やファイル名を変更すると Switch はそのジョブと内部ジョブチケットの関連情報を失ってしまい、ジョブの再実行ができなくなります。

ジョブの再実行をするには次のいずれかの方法を実行します。

- キャンバス上で問題ジョブのフローエレメントを選択すると（問題ジョブも含む）、ツールボタンの「再実行」が使用可能になります。ツールボタンの「再実行」を押すと選択された問題ジョブのフローエレメント内のすべてのジョブは再実行されます。



•問題ジョブのフローエレメントのコンテキストメニューから「すべてのジョブを再実行」を選択。フォルダペインで問題ジョブのリストを表示して（問題ジョブフローエレメントが選択されている状態）、コンテキストメニューから「再実行」を選択。これは選択されたジョブのみ再実行されます。



•ダッシュボードのコンテキストメニューにはリスト表示された 1 つまたは複数のジョブを再実行するオプションがあります。



問題プロセスの処理

フローの処理中に、Switch はフローの定義に従ってプロセスを実行し、そして次のプロセスへとジョブを移動させます。しかし、プロセス自体の問題によって処理を継続できなくなる状況もあります。このような場合、Switch はそのプロセス以前のすべてのジョブを問題が解決するまでフロー内で「入力」待機の状態にします。（そのジョブ側に問題がなければ、そのジョブを問題ジョブフォルダに移動するということにはなりません。）

ジョブが問題ジョブフォルダに移動される重要な原因の例

- ネットワークの問題でジョブが転送されない。
- プロセスのプロパティが適切な値で設定されていない。（Switch はフローの起動時に無効なプロパティを検出しますが、すべての問題を 100%検出するとは言い切れません）

Switch は問題ジョブの存在を検出したり、問題を修正した後にフローに再挿入したりするなど、問題ジョブを処理するための機能を提供しています。

問題プロセスの検出

問題プロセスを検出するには次のいずれかの方法を行います。

- コミュニケーション処理（メール、FTP、ローカルネットワーク）が特定の時間を超えて失敗した場合、または外部プロセスが失敗した場合、Preferences の「問題の警告」で連絡メールをシステム管理者に送信することができます。
- 問題プロセスが発生したフローエレメントはキャンパス内に赤いエラーマークで表示され、その問題の状況を表示します。ダッシュボードペインは、既存の問題プロセスの概要を表示します。

自動再実行

Preferences の「エラー処理」で自動的に問題プロセスを特定の時間間隔で再実行するように設定できます。

カテゴリで分けられた異なるプロセスごとに個別の値を指定できます。

ネットワーク関連の問題は外部の影響によって改善することもあるので、自動再実行は特にコミュニケーション処理に対して有効です。

手動再実行

手動でプロセスの再実行をするには次のいずれかの方法を実行します。

- キャンパス内で問題プロセスに対応するフローエレメントを選択するとツールボタンの「再実行」が使用可能になります。ツールボタンの「再実行」を押しプロセスを再実行します。
- キャンパス内の問題プロセスに対応するフローエレメントのコンテキストメニューから「再実行」を選択。
- ダッシュボードペインのコンテキストメニューからリスト表示されたプロセスを再実行するオプションを選択。
- フローを停止、または再起動する時、問題プロセスはすべて自動的に再実行されます。
- Switch を終了、または再起動する時、問題プロセスはすべて自動的に再実行されます。

4.5 課題 1:ファイルタイプによるファイルの仕分け

練習課題

ファイルをインプットフォルダに手動で投げ込むことができるフローを作成します。Switch は、PDF と PDF 以外のファイルを、2 つのカテゴリに仕分けすることができます。

テスト用ファイル

テスト用ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.enfocus.com/manuals/Extra/Switch/Switchtutorial.zip>

解決策

- 次の手順書に従って作成してみる。
- ダウンロードした ZIP に含まれている「Tutorial 1 Flow.sflow」を「フロー」メニューから「フローの読み込み」を選び、読み込みます。作成したフローと比較してみてください。
- どのようにフローが作られたのかを解説した動画を参考にしてください。
<http://youtu.be/u8BT8llg3RI>

4.5.1 課題 1 : フローの作成手順

ここでは、基礎となるフローを作成する手順を、簡単に説明します。

インプットフォルダへ投げ込まれる雑多なファイル形式のファイルを、PDF と PDF 以外のファイルとして、2 つのカテゴリに分別します。(PDF とそれ以外)

1. Switch を開きます。

2. 「新規フロー」 ボタンをクリックして、空白のフローを作成。フローの名前を「Tutorial 1 Flow」に変更します。

- 新規空白フローを作成
- 新規作成したフローがフローペインで選ばれていることを確認して、プロパティペインで名前フィールドをクリックします。
- 「新規フロー 1」を「Tutorial 1 Flow」に変更します。

3. インプットフォルダとして、フォルダフローエレメントを追加、そして指示のようにプロパティを設定します。この課題練習では、インプットフォルダの名前を「Input 1」として、実際のフォルダをデスクトップ上に配置します。

- フローエレメントペインから、フォルダフローエレメントを選び、ドラッグして空白キャンバス上にドロップします。キャンバスにアイテムを運んで行くと、カーソルが表示されるはずですが、そのカーソルをキャンバスの左側まで運び、ドロップして配置します。
- キャンバス上に配置したフォルダを選びます。
- プロパティペインで、名前を「Input 1」へ変更します。
- デスクトップ上に位置する実際のフォルダへパスを指定します。

1. フォルダが選択されていることを確認します。
2. プロパティペインにあるパスフィールドをクリックします。
3. パスフィールド右側にあるボタンをクリックします。
4. 「フォルダを選択」メニューを選びます。
5. この時点で、新規フォルダをデスクトップに作成して、名前を「Input flow 1」とします。
6. 「choose」ボタンをクリックして決定します。



**Note :**

実際の制作ワークフローでは、インプットフォルダの絶対パスを、ネットワークフォルダとすることもできます。Switch Server がアクセス可能な（読み取り／書き込み）共有ボリュームと関連づけることができます。

4.次に2番目のフォルダを追加します。

このフォルダの名前を「Sort for PDF」とします。このフォルダは、実際のフォルダパスを指定せず、自動管理のままにしておきます。ワークフローの途中で、ファイルがネットワークを移動することを極力避けるために、ワークフローの中間に位置するフォルダについては、「自動管理」のままにしておくことをおすすめします。

5.キャンパス上の右側に、仕分け処理を終えたファイルを運ぶためのフォルダを2つ追加します。1つはフォルダの名前を「PDFs」、もう1つはフォルダの名前を「All other files」と設定します。

6.ジョブの処理ができない場合に備えて、「問題ジョブ」フローエレメントを追加します。

作成しているフローは次のようになっているはずです。



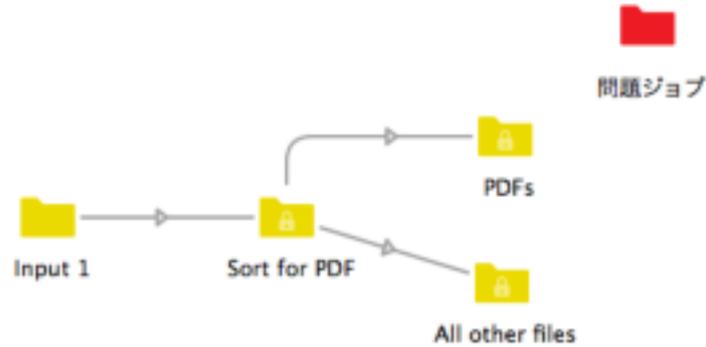
7.フォルダエレメントを接続（結び合わせ）します。

- a. 「Input 1」フォルダをダブルクリックします。接続線が現れます。
- b. 「Sort for PDF」フォルダへカーソルを移動して接続線を引き延ばします。「Sort for PDF」フォルダをクリックします。結果、2つのフォルダが接続線で結ばれ接続されます。
- c. 同様に「Sort for PDF」フォルダから「PDFs」フォルダへ接続。「Sort for PDF」フォルダから「All other files」フォルダへ接続します。

**Note :**

ファイル（ジョブ）が流れる方向は、始点から終点へと流れます。接続線の中央に位置する△が示す方向へと流れます。始点でダブルクリックして、終点でクリックして接続していきます。

これまでの手順で、次の図のようになります。



8.次に、PDF が「PDFs」フォルダへ運ばれ、PDF 以外のファイルは「All other files」フォルダへ運ばれるように、「接続」の設定を行います。

- a. 「Sort for PDF」と「PDFs」を結んでいる「接続」をクリックします。
正しく選ばれた場合、接続の色が暗いグレーへ変化します。
- b. プロパティペインの「これらのジョブを含める」フィールドを選択します。
- c. フィールドの右側にあるボタン  をクリックします。ポップアップメニューから「ファイルタイプの指定」を選びます。
 1. 「ファイルタイプの指定：これらのジョブを含める」ダイアログの中から「Adobe PDF (*.pdf)」を選びます。
 2. 「追加」ボタンをクリックして右側の窓へ追加します。
 3. 「OK」ボタンをクリックして決定します。
- d. 「Sort for PDF」と「All other files」を結んでいる「接続」をクリックします。
- e. プロパティペインの「これらのジョブを含める」フィールドを選択します。
- f. フィールドの右側にあるボタン  をクリックします。ポップアップメニューから「その他のジョブ」を選びます。

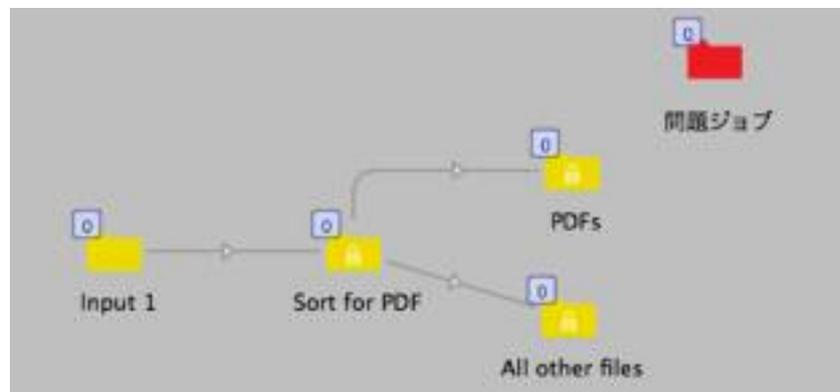
ここまでの手順で、フローの設計が完了しました。

9.フローを保存します。デザインウインドウ上部にある「フローを保存」ボタンをクリックします。

10.フローを起動します。デザインウインドウ上部にある「フローの起動」ボタンをクリックします。

デザインウインドウの背景色がグレーへ変化して、フロー内の各フォルダに数字の「0」が表示します。この数字は、フォルダに含まれるジョブの量を示すものです。

これまでの手順で、次の図のようになります。



11.デスクトップに位置する「Input flow 1」フォルダへテスト用のジョブを投げ込みます。

もしテスト用のファイルの準備がない場合、「Tutorial Job Folder」の中にサンプルファイル（PDF または PDF 以外）が含まれています。

Switch は、10 秒でファイルを認識します。（ユーザー管理フォルダの監視頻度既定値：10 秒）そして、投げ込んだファイルがカウントされて、数量が表示されます。しばらくすると、仕分けした結果、それぞれのフォルダへ該当のファイルが運ばれます。

12.処理結果を確認してください。「PDFs」フォルダと「All other files」フォルダをクリックして、内容を確認します。「ジョブペイン」では、それぞれのフォルダに含まれているファイルの一覧が表示されます。PDF ファイルは「PDFs」フォルダへ運ばれ、PDF 以外のファイルは「All other files」フォルダへ運ばれます。もし、正しく動作していない場合、「接続」に対しての設定を確認してください。



Note :

ジョブペインに一覧されているファイルを、クリックして選択して、キーボードの「delete」キーを押すことで、アウトプットフォルダからファイルを削除することができます。

4.6 課題 2:ファイル名のパターンによるファイルの仕分け

練習課題

課題 1 で作成したフローを複製して、仕分ける条件を変更します。課題 1 では、ファイルタイプ（形式）に基づいて仕分けましたが、この課題 2 では、ファイル名のパターンに基づいて仕分けてみます。

- ファイル名に「Part1」（例えば、JobsPart1.pdf または Part1_jobs.pdf など）が含まれている場合、「PDFs」フォルダへ運びます。
- その他すべてのファイルは、「All other files」へ運びます。



Note :

この種のフローは、Web to Print システムからファイルを受信するケースにとっても役立ちます。カラーモデルや表裏など、ジョブの種類を識別するためにファイル名に含められたファイル名パターンに基づいて仕分けするケースに役立ちます。

テスト用ファイル

テスト用ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.enfocus.com/manuals/Extra/Switch/Switchtutorial.zip>

解決策

- 次の手順書に従って作成してみる。
- ダウンロードした ZIP に含まれている「Tutorial 1 Flow.sflow」を「フロー」メニューから「フローの読み込み」を選び、読み込みます。作成したフローと比較してみてください。
- どのようにフローが作られたのかを解説した動画を参考にしてください。
<http://youtu.be/GIwDS8kvnvw>

4.6.1 課題 2 : フローの作成手順

ここでは、基礎となるフローを作成する手順を、簡単に説明します。

課題 1 で作成したフローを複製して、仕分ける条件を変更します。課題 1 では、ファイルタイプ（形式）に基づいて仕分けましたが、この課題 2 では、ファイル名のパターンに基づいて仕分けてみます。

- ファイル名に「Part1」または「part1」（例えば、JobsPart1.pdf または Part1_jobs.pdf など）が含まれている場合、「PDFs」フォルダへ運びます。

- その他すべてのファイルは、「All other files」へ運びます。

1. 「Tutorial 1 Flow」を複製します。

- a. フローペインにある「Tutorial 1 Flow」をクリックします。
- b. マウスの右ボタンクリックしてコンテキストメニューから「フローの複製」を選びます。

2. フロー名の変更（リネーム）

- a. プロパティペインの「名前」をクリックします。
- b. 「Tutorial 1 Flow [コピー]」を「Tutorial 1B Flow」に変更します。

3. 仕分けの設定を定義する。

- a. 「Sort for PDF」と「PDFs」を結んでいる「接続」をクリックします。
- b. プロパティペインの「これらのジョブを含める」フィールドを選択します。
- c. フィールドの右側にあるボタンをクリックします。ポップアップメニューから「ファイルパターンの指定」を選びます。
- d. 「ファイルパターンの指定：これらのジョブを含める」ダイアログの中へ、「*part1*」と入力して「OK」ボタンをクリックして決定します。

アスタリスク「*」は、ワイルドカードと呼ばれる特殊文字です。どんな対象文字、ないし文字列にもマッチするもののことです。「*part1*」は、「Part1」「part1」「PART1」などにパターンマッチします。



4.処理の結果を確認します。

- a. フローを保存して起動します。
- b. 2つの tutorial 1 PDF ファイルをインプットフォルダへ投げ入れます。
- c. 「PDFs」と「All other files」に運ばれたファイルをジョブペインで確認します。

Job_Part1.pdf は「PDFs」フォルダへ運ばれ、Job_Part2.pdf は「All other files」フォルダへ運ばれるはずです。

5. 応用

クイックスタートガイドのこのパートでは、応用編としてよく役立つ機能を説明します。サンプルジョブを使い、ジョブフォルダをフローへ投げ入れる、別のフローからデータを受け渡すなどのフローをデザインします

5.1 メタデータとファイル情報を使う

Switch は、例えば、XMP メタデータ、EXIF または IPTC タグのように、ジョブ（ファイル）の内部に格納されたジョブ情報を使うことが可能です。その情報を参照して、ファイルの仕分けやメールメッセージに含めるなど、活用することができます。

**Note :**

Switch は、ジョブに関連づけられた外部のメタデータ・データセットを取り込むこともサポートしています。これが XML、XMP または JDF メタデータである場合、Switch はメタデータファイルのコンテンツへの便利なアクセスを提供しています。他の種類のファイル（TXT など）については、スクリプト式として、ファイルコンテンツにアクセスするために使用することができます。

埋め込まれたメタデータの例

- ページ数
- 作成者
- 作成日
- 紙種
- その他

メタデータを活用するケース

最終的にインキ量を調整する行程に渡すジョブは、ジョブの内部に埋め込まれた（コート紙 対 非コート紙）用紙の種類に関する情報を使用することができます。または、印刷数量に基づいてジョブをソートするには、印刷数量に関する情報を使用することができます...

クライアントに電子メール通知を送信する場合、手動でクライアントの電子メールアドレスを入力するか、ジョブからクライアントのメールアドレスを抽出することができます。また、クライアントの参照番号、または他の関連するメタデータを参照することができます。

**Note :**

電子メールで入稿されたジョブを Switch の「メール受信」フローエレメントで受けた場合、送信者のメールアドレスは自動的にメタデータ・データセット内に格納されます。このため、送信者宛に自動返信することができます。

変数

Switch では、変数を用いてメタデータへアクセスすることができます。

大きく 2 種類の変数があります。

- Switch 変数

特定のジョブには関連しない「Switch.FlowName」「Switch.Language」「Switch.ServerName」など ...

- ジョブ関連変数

ジョブに関連した変数「Job.Size」「Job.EmailAddress」など...

Switch で、埋め込まれたメタデータの使い方

•ファイルの仕分けにメタデータを使いたい場合、「接続」フローエレメントを選び、プロパティペインにある「これらのジョブを含める」または「これらのジョブを除外する」フィールドで、「変数を含む条件の指定」使います。



•メール送信にメタデータを使いたい場合、ジョブに電子メール情報を含めることをサポートしたフローエレメント（例えばフォルダフローエレメント）を選択して、単一行または複数行の変数テキストを定義する必要があります。添付された電子メール情報（アドレスや本文）は、のちに電子メールを送信する「メール送信」フローエレメントで使用することができます。



5.1.1 サンプルジョブについて

サンプルジョブとは、評価用のジョブです。

(ファイルの仕分けやファイル名の変更のジョブなど) テキストを定義する条件を設定するために変数を使用している場合、サンプルジョブを使用すると、ジョブに格納されているメタデータの実際の値を確認することができます (例えば、電子メール通知をカスタマイズします)。



Note :

Switch は、フローに、少なくとも 1 つの有効なサンプルジョブが含まれている場合、変数の値を表示することができます。

サンプルジョブは、フローの各ステップで何が起きているのか確認するのに有効です。

どのように活用するのか

デザインしたフローの一部の接続線を、ホールドします (せき止めます)。ホールドにしたまま、フローを起動して、インプットフォルダへジョブを投げ込みます。しばらくすると、ジョブを認識して、ホールドされた接続線の手前のフォルダフローエレメントに、投げ込んだジョブが停滞します。ジョブペインで確認してください。



Note :

Switch へジョブを投げ込んで間もなく、Switch がジョブを認識すると、ファイル名の先頭 (Prefix=プリフィックス) にユニーク ID 番号が付与されます。Switch はジョブを特定するために、このユニーク ID 番号を使います。

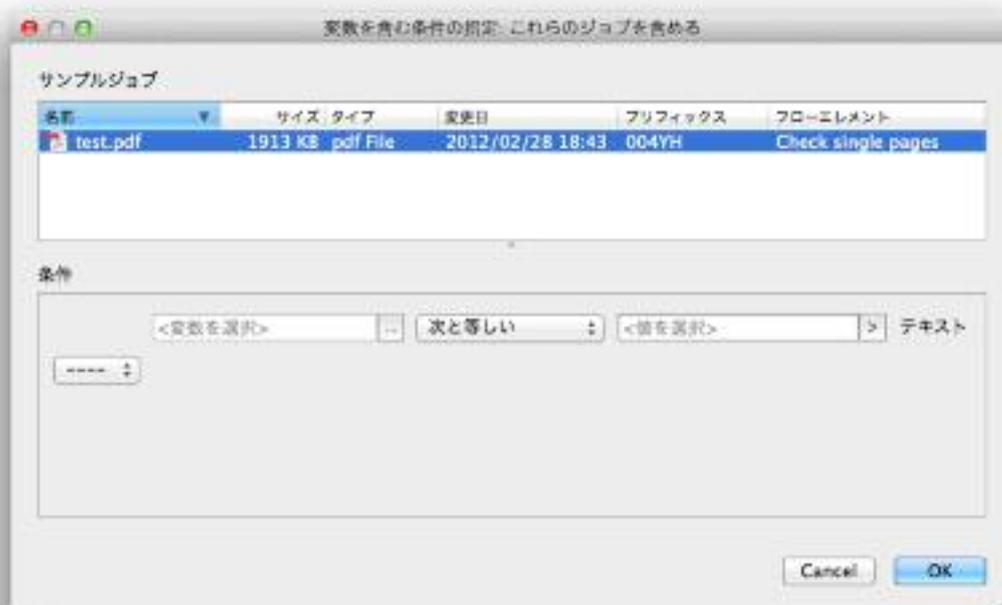
このユニーク ID 番号は、ジョブがフローのアウトプットフォルダへ運ばれたタイミングで、取り除かれます。ユニーク ID 番号が取り除かれると、ジョブの処理が完了したことを意味します。また、Switch は、完了したジョブはコントロールしません。

サンプルジョブの例



この例では、「Check single pages」フォルダエレメントに、1 ファイル含まれていて、そのファイルに対してプリフィックスが付与されていることを、ジョブペインで確認することができます。

次に、「Check single pages」フォルダエレメントと「OK」フォルダエレメントを結ぶ接続線を選び、プロパティペインの「これらのジョブを含める」を選びます。ポップアップメニューの中から、「変数を含む条件の指定」を選びますと、変数の編集を行うダイアログが表示されます。その中に、サンプルジョブが含まれています。そのサンプルジョブに埋め込まれているメタデータを参照して、条件を決めてファイルの仕分けを可能とします。



5.1.2 サンプルジョブの作成

サンプルジョブを使用すると、埋め込まれているサンプル変数の値を参照することができるため、メタデータを条件としてファイルを仕分けたり、メタデータを参照して電子メール通知のテキスト本文やメールアドレスなどに使うことができます。

サンプルジョブを作成するには

1. フローを作成します。
2. 作成したフローを保存して起動します。
3. 変数を含む条件を指定したい接続線を選び、ホールドにします。
4. フローテスト用のジョブを投げ込みます。ジョブを認識するまで待ちます。
5. フローを停止します。

この結果、テスト用として投げ込んだジョブが、ジョブペインに表示されます。そのファイルにプリフィックスが付与されていることを確認してください。次にプロパティペインの「これらのジョブを含める」を選びます。ポップアップメニューの中から、「変数を含む条件の指定」を選びますと、変数の編集を行うダイアログが表示されます。その中に、テスト用として投げ込んだサンプルジョブが含まれています。

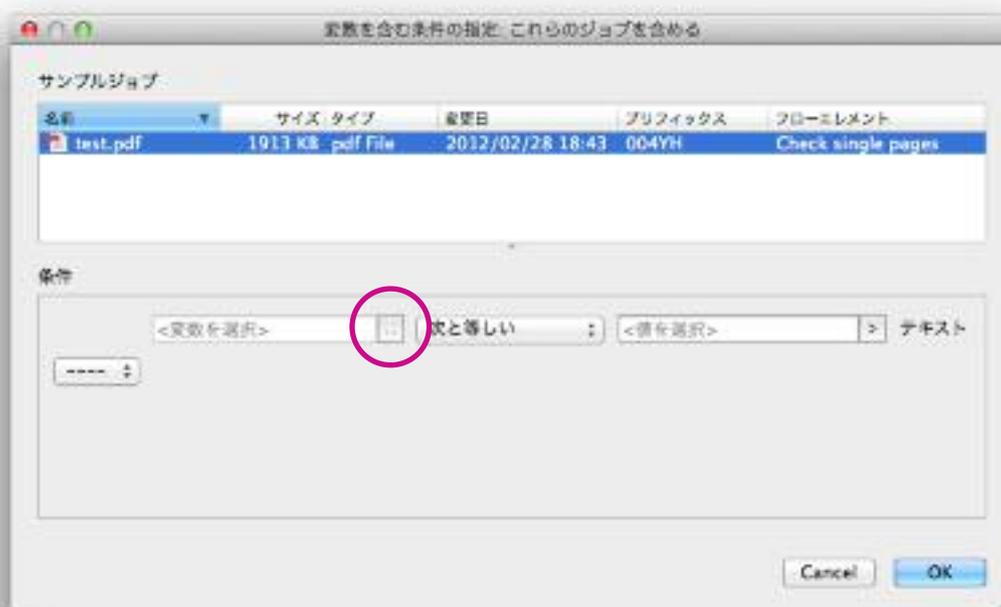
5.1.3 変数を含む条件の指定

変数は、ジョブ内部に埋め込まれた情報を取り出して使うことができます。そして、その情報を条件としてフローの流れをコントロールすることにも役立ちます。条件は、変数、演算子、値（これは固定値または別の変数を設定することができます）で構成します。

例えば、PDF ファイルのページ数（100 ページより多いものと 100 ページ以内のもの）で仕分けるフローを作成する場合、1 つ目の接続線に対する条件の指定を、[Number of pages] <= 100 と設定し、2 つ目の接続線に対する条件の指定を、[Number of pages] > 100 と設定する必要があります。

変数を含む条件を指定するには

1. 接続エレメントを選びます。
2. プロパティペインで、「これらのジョブを含める」または「これらのジョブを除外する」のどちらかをクリックして、ポップアップメニューの中から、「変数を含む条件の指定」を選びます。
3. 変数のサンプル値を表示したいサンプルジョブを選択します。サンプル値を見ることができるようするには、少なくとも 1 つの有効なサンプルジョブが必要です。
4. まず、1 つ目の条件を指定します。
 - a. 条件の「変数を選択」フィールドの右側にあるボタンをクリックします。



b. 目的の変数を探します。

最初のコラムのグループを選択します。2 番目のコラムに、各グループに含まれる変数が一覧されますので、中から目的の変数を選びます。3 番目のコラムには、2 番目のコラムで選んだ変数に関する解説が表示されます。そして、サンプルジョブの内部から取得したメタデータを表示します。（選択したサンプルジョブに応じて、取得した異なるメタデータが表示されるはずですが）



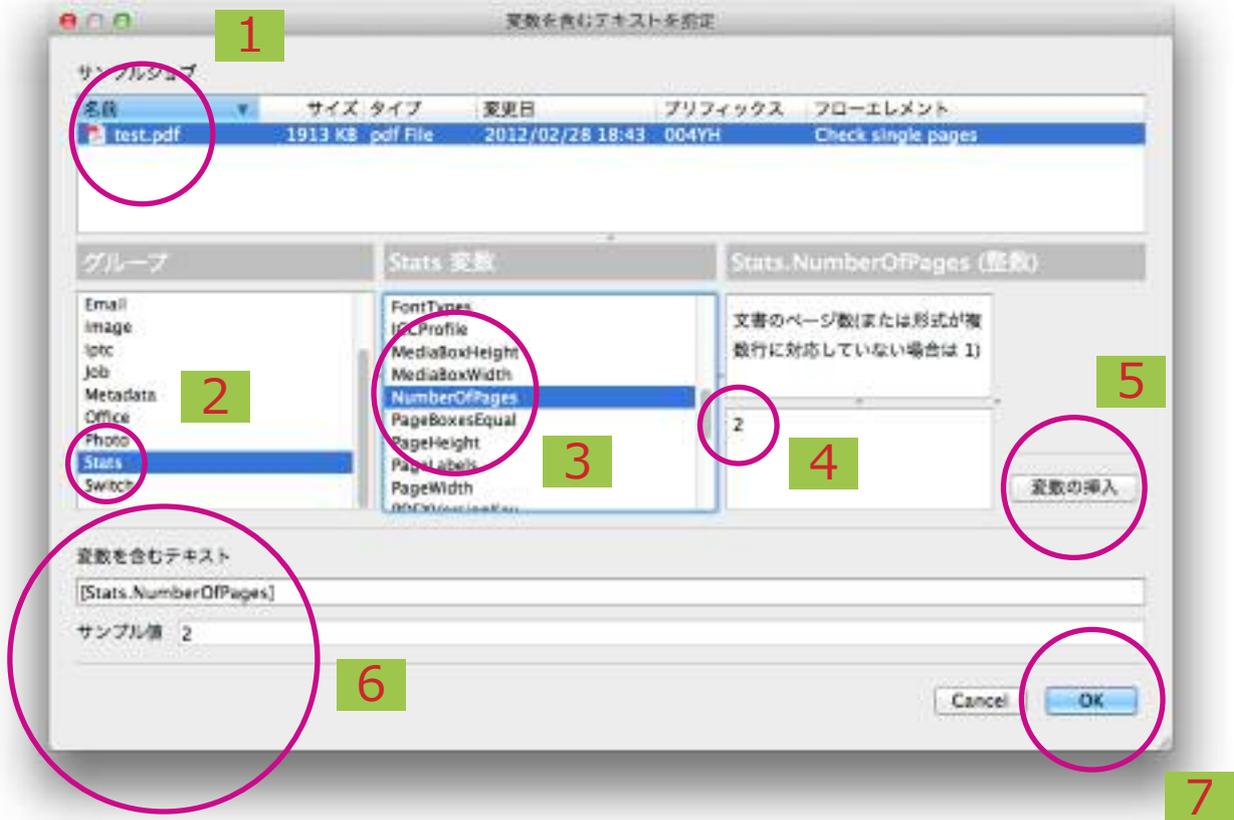
Note :

ジョブに依存しない変数（Switch.FlowName など）の場合、変数のサンプル値は、異なるサンプルジョブを選んでいても同じ値を取得します。

例えば、ページ数の変数は、グループ「Stats」で見つけることができます。選択した変数に応じて、追加オプションが設けられています。例えば日付の場合には、右側にある追加のオプションで、その日付の書式を定義します。

c. 変数を決めたら、「変数の挿入」ボタンをクリックします。
「変数を含むテキスト」フィールドに挿入された「変数」が確認できます。

d. 「OK」ボタンをクリックして決定します。



5.次に、選択した変数値の右横にある「演算子」をリストから選びます。
例えば、「次と等しい」「次と等しくない」「次以下」「次以上」など

6.次に値を入力します。(3つ目のフィールド)

- 任意の値を入力するには、プルダウンメニューの中から「入力値」を選び、テキストフィールドに入力します。
- 変数値を入力するには、プルダウンメニューの中から「変数テキストの指定」を選び、ステップ4の手順で変数を決定します。

サンプル値は、サンプルジョブが定義された条件に一致するか否かを示します。「true」または「false」と表示します。例えば、20ページのサンプルジョブの場合、「100ページ以上のページ数」と条件設定されていれば、20ページは100ページ以下なので、サンプル値は「false」と返されます。「false」とは、条件不一致。「true」とは、条件一致です。

7.必要に応じて、複数の条件を追加するには、「----」ボタンをクリックして、追加の条件を指定します。ステップ4~6の手順を繰り返します。

8.「OK」ボタンをクリックします。
これらのジョブを除外/含めるプロパティの値が、定義された状態に設定されています。

5.1.4 変数を含むテキストの指定

変数は、ジョブのためにメタデータ情報を取得することができます。そして、この情報をメール通知のために使うことができます。(例えば、顧客またはその参照番号)

変数を含むテキストを指定するには

- 1.フォルダフローエレメントのように、メール情報の添付をサポートしたフローエレメントを選択します。
 - 2.プロパティペインで、「E メールアドレスを添付」または「E メール本文テキストを添付」どちらか活用したい方をクリックしてください。
 - 3.次に選択したフィールドのプルダウンメニューから「複数行のテキスト編集」または「変数テキストの指定」、「変数テキスト（複数行）の指定」を選択します。
 - 4.ダイアログがポップアップ表示された場合は、必要なテキストまたはメールアドレスを入力して、変数を挿入するための「変数の指定」ボタンをクリックします。
 - 5.変数のサンプル値を表示したいサンプルジョブを選択します。少なくとも1つの有効なサンプルジョブが必要です。
 - 6.目的の変数を探します。
 - a.最初のコラムのグループを選択します。
 - b.2番目のコラムに、各グループに含まれる変数が一覧されますので、中から目的の変数を選びます。3番目のコラムには、2番目のコラムで選んだ変数に関する解説が表示されます。そして、サンプルジョブの内部から取得したメタデータを表示します。(選択したサンプルジョブに応じて、取得した異なるメタデータが表示されるはずですが) 選択した変数に応じて、追加オプションが設けられています。例えば日付の場合には、右側にある追加のオプションで、その日付の書式を定義します。
 - c.変数を決めたら、「変数の挿入」ボタンをクリックします。「変数を含むテキスト」フィールドに挿入された「変数」が確認できます。
-
- 
- Note :**
このフィールドに「変数を含むテキスト」だけでなく、任意のテキストを挿入することができます。ジョブがこのフローで処理されるときに、変数が実際の値で置換されます。
例えば、次のような変数を含むテキストを指定した場合、「Job.NameProper」は、「Job.Size」バイトの容量です。が「テストファイルは、5412バイトの容量です。」と、置き換わりません。
-
- d.「OK」ボタンをクリックして決定します。
- 7.もしも、ステップ3で「変数テキスト（複数行）の指定」を選択した場合、ステップ4~6を繰り返してください。もしも、「変数テキストの指定」を選択した場合、1行の変数で定義する必要があります。
 - 8.必要に応じてダイアログボックスを閉じるには、「OK」ボタンをクリックします。

5.1.5 課題 3 : PDF ファイルに含まれる情報による仕分け

練習課題

ファイルタイプを条件として仕分けした（課題 1）や、ファイル名のパターンを条件として仕分けした（課題 2）で作成したフローのどちらかを複製します。今回の課題では、PDF ファイルに埋め込まれたメタデータ情報を条件に指定して仕分けていきます。1 つの参考事例として PDF ファイルのトリムボックスのサイズが、144 x 252 ピクセルのものだけを「PDFs」フォルダへ運びます。



Note :

仕分けに使える他の情報は、ページの幅や高さ、ページ数、カラーモデルなどがあります。

この方法は、PDF ファイル固有の情報を確認したり、次の処理のために仕分けることができます。

例えば、名刺制作のワークフロー作成する場合、インプットファイル（入稿 PDF）が名刺サイズであることを確認することができます。これは、ファイル内で定義された実際のサイズを見ることができ、手作業で PDF ファイルをアプリケーションで開き、サイズを確認するよりも効率が良くなります。

テスト用ファイル

テスト用ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.enfocus.com/manuals/Extra/Switch/Switchtutorial.zip>

解決策

- 次の手順書に従って作成してみる。
- ダウンロードした ZIP に含まれている「Tutorial 1C Flow.sflow」を「フロー」メニューから「フローの読み込み」を選び、読み込みます。作成したフローと比較してみてください。
- どのようにフローが作られたのかを解説した動画を参考にしてください。
<http://youtu.be/GIwDS8kvnvw>

5.1.5.1 課題 3 : フロー作成手順

ここでは、基礎となるフローを作成する手順を、簡単に説明します。

変数に基づいて仕分けするフローを作成します。ファイルタイプに基づいての仕分けから仕分け方法を変更する手順について説明します。

今回の課題では、PDF ファイルに埋め込まれたメタデータ情報を条件に指定して仕分けていきます。1 つの参考事例として PDF ファイルのトリムボックスのサイズが、144 x 252 ピクセルのものだけを「PDFs」フォルダへ運びます。その他すべてのファイルは、「All other files」へ運びます。

1. 「Tutorial 1 Flow」を複製します。

- a. フローペインにある「Tutorial 1 Flow」をクリックします。
- b. マウスの右ボタンクリックしてコンテキストメニューから「フローの複製」を選びます。

2. フロー名の変更（リネーム）

- a. プロパティペインの「名前」をクリックします。
- b. 「Tutorial 1 Flow [コピー]」を「Tutorial 1C Flow」に変更します。

3. 「Sort for PDF」と「PDFs」を結んでる接続を、ホールドに設定します。

- a. 「Sort for PDF」と「PDFs」を結んでる接続を、選択します。
- b. 右ボタンクリックしてホールドを選びます。

または、接続のプロパティで、ホールドジョブの値を「はい」に設定して、ホールドにすることができます。

これは、インプットジョブをせき止め、「Sort for PDF」フォルダでストップするようにするためです。フローを停止し、変数の条件を定義することができるようになります。

4. フローを保存して、起動します。

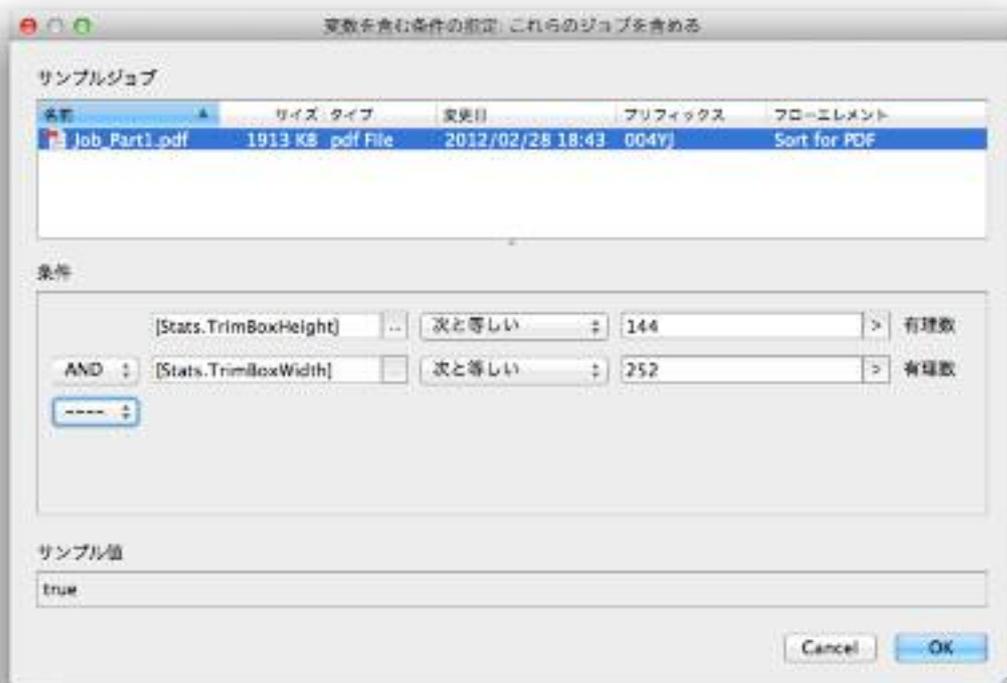
5. フローへ PDF ファイルを投げ込みます。(例えば、Job_Part1.pdf)



6. 投げ込んだジョブが、「Sort for PDF」フォルダまで流れたら、「フローを停止」ボタンをクリックします。

7. 仕分けの条件を指定します。

- a. 「Sort for PDF」と「PDFs」を結んでいる「接続」をクリックします。
- b. プロパティペインの「これらのジョブを含める」フィールドを選択します。
- c. フィールドの右側にあるボタンをクリックします。ポップアップメニューから「変数を含む条件の指定」を選びます。変数を含む



変数を含む条件の指定ダイアログの中にテスト用のファイルが表示されます。

- d. 「変数を含む条件の指定：これらのジョブを含める」ダイアログの中にある、「条件」で、最初のフィールドの横にあるボタンをクリックします。
- e. 「変数を含むテキストを指定」ダイアログの表示されたテスト用のファイルを選択します。そして、変数を指定します。

1. グループコラムから、「Stats」を選びます。
2. 変数コラムから、「TrimBoxHeight」を選びます。

選択した変数に応じて、コラムの右側に表示する値が変わります。テスト用のファイルを選択した場合の値は、(Job_Part1.pdfのトリムボックスの高さは、144 ピクセル) 3 番目のコラムの下に表示されるはずですが。

3. 「変数の挿入」 ボタンをクリックします。

「変数を含むテキスト」 フィールドに、インプットファイルを仕分けするための条件として使われる変数が表示されます。
[Stats.TrimBoxHeight]

4. 「OK」 ボタンをクリックします。

f. 「変数を含む条件の指定」 ダイアログで、演算子として「次と等しい」を選び、値に「144」と入力します。
ここまでの手順で、1つ目の条件が決まりました。

g. 2つ目の条件を設定するために、「AND」をプルダウンメニューから選びます。

h. 前のステップを繰り返し、追加の条件を決定します。(Job_Part1.pdfのトリムボックスの高さ幅は、252ピクセル)

i. 「OK」ボタンをクリックして設定作業を完了します。

8. 処理の結果を確認します。

a. 「Sort for PDF」と「PDFs」を結んでいる「接続」をクリックします。

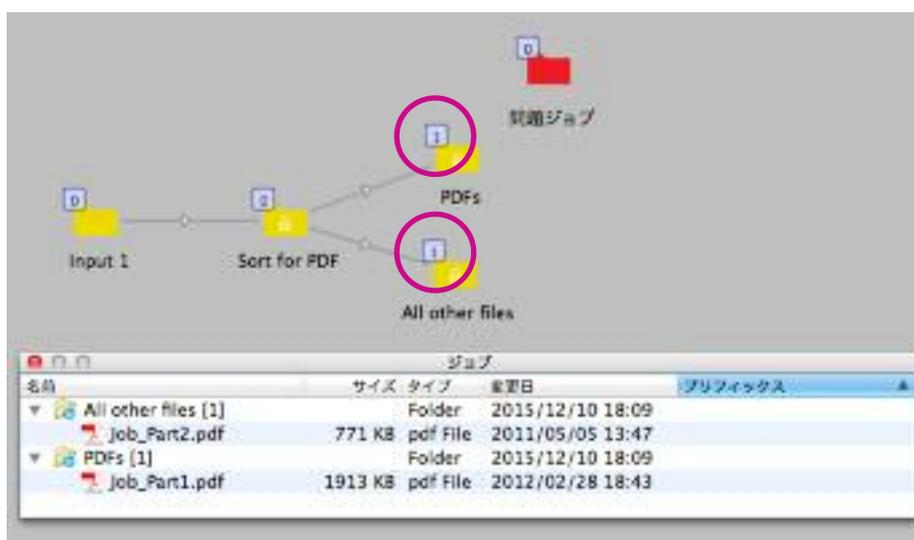
b. 右ボタンをクリックして「リリース」を選びます。

または、接続のプロパティで、ホールドジョブの値を「いいえ」に設定して、リリースにすることができます。
これは、せき止めていたインプットジョブを解放します。

c. フローを保存して起動します。

b. 「Job_Part1.pdf」と「Job_Part1.pdf」を、インプットフォルダへ投げ入れます。

Job_Part1.pdfは「PDFs」フォルダへ運ばれ、Job_Part2.pdfは「All other files」フォルダへ運ばれるはずです。



5.2 フォルダおよびサブフォルダの操作

Switch は、ファイルおよびフォルダのどちらもインプットジョブとして受け取ります。そして、ワークフローにしたがってジョブを運びます。しかし、ユーザーによっては、プロジェクトや日付やクライアント別に仕分けて管理しているケースがあり、単一のファイルを、階層サブフォルダの中からファイルを取り出して、それぞれ別のジョブとして処理しなければならないケースがあります。

階層構造を操作するための専用の以下のフローエレメントのいずれかを使用しない限り、Switch は、実際のジョブフォルダ（1ジョブとして処理される）なのか、サブフォルダの階層内のファイルとを区別することはできません。（個別のファイルとして処理される）

- 「ジョブのグループ解除」「階層分析」「階層パスを設定」「階層保管」フローエレメント

5.2.1 ジョブのグループ解除フローエレメント



「ジョブのグループ解除」エレメントについて

「ジョブの統合」エレメントと組み合わせて使用する「ジョブのグループ解除」エレメントは、フォルダ構造内からファイルを取り出して個別にファイル进行处理し、最終的に元のフォルダ構造に処理済のファイルを運ぶことができます。

どのように活用するのか

1. 「ジョブのグループ解除」エレメントを、フローの始点に配置します。フォルダのままフローへ投げ込み、フォルダ構造内からファイルを取り出します。
2. 取り出したファイル进行处理します。（フロー内のエレメントによって）
3. フローの終点に「ジョブの統合」エレメントを配置します。ここで、元のフォルダ構造に戻す、または新たなジョブフォルダとしてジョブを統合するために使用されます。

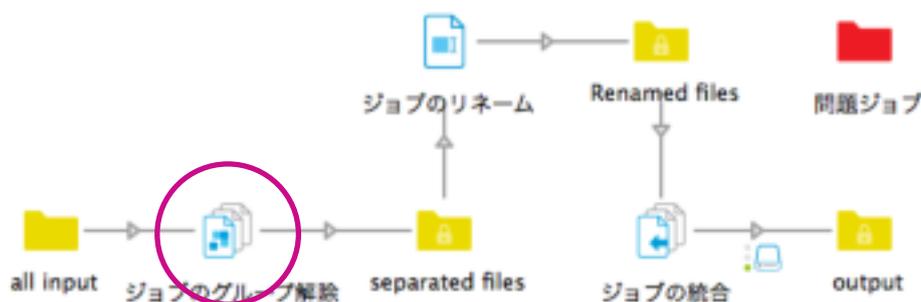


Note :

「ジョブの統合」エレメントは、処理されたジョブの再編成のためのさまざまな方法（スキーム）を提供します。この時、元のフォルダ構造（ジョブのグループ解除フローエレメントによって記憶された）を復元する場合、プロパティのスキームに「ジョブのグループ解除」と設定する必要があります。

この時、サブフォルダレベルのプロパティは、とても重要な意味を持つプロパティとなります。すべてのサブフォルダを復元するためには、余裕のある高い値を入力することをお勧めします（例えば 999）。

グループ解除の例



このサンプル例でのインプットは、

- 最初にグループ解除
- 次にファイル名のリネーム（変更）
- 最後にジョブの統合（復元）

非常に多くの中間フォルダが必要となるケースがあります。2つのフォルダエレメントは直接相互接続することがありますが、フォルダ以外のエレメント間には、少なくとも1つのフォルダエレメントを追加する必要があります。（自動的に追加されます）

このフローの結果を見ることができます。

すべてのファイルが別々に処理されますが（例えば、ファイル名が変更される）、フォルダ構造は元のまま同じです。



Note :

そのジョブに含まれるすべてのファイルが運ばれて来るまで、ジョブを統合することができません。

例えば、インプットファイルの一部が「問題ジョブ」フォルダに送信された場合、ジョブを統合することができません！

5.2.1.1 課題 4 : 複数ファイルのグループ解除および再グループ化

練習課題

複数のフォルダ構造のあるフォルダがインプットジョブである場合に対応できるフローを作成します。インプットファイルをファイルタイプを条件に仕分けます。「PDFs」は PDF が運ばれる 1 つのフォルダ、「all other files」はその他のファイル（PDF 以外）が運ばれるフォルダとなりますが、最後の行程で、元のフォルダ構造に復元します。サンプルジョブを使ってジョブフォルダがどのようにグループ解除されるのか確認していきます。



Note :

グループ解除やフォルダを再統合することは、時間の節約に役立ちます。手動でファイルを抽出する必要がなくなります。フォルダ階層にそれぞれ特定の処理を必要とする別のファイルタイプが含まれている場合に、この練習課題は役立ちます。

例えば、InDesign のパッケージ内のすべての画像を CMYK に変換したい場合、画像だけを取り出して Photoshop（Photoshop のコンフィギュレータで）を使って処理します。手動による作業なしで、最終的に元のパッケージを復元します。

テスト用ファイル

テスト用ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.enfocus.com/manuals/Extra/Switch/Switchtutorial.zip>

解決策

- 次の手順書に従って作成してみる。

- ダウンロードした ZIP に含まれている「Tutorial 2 Flow.sflow」を「フロー」メニューから「フローの読み込み」を選び、読み込みます。作成したフローと比較してみてください。

- どのようにフローが作られたのかを解説した動画を参考にしてください。

<http://youtu.be/0Mxqci8oCuM>

5.2.1.2 課題 4 : フロー作成手順

この練習課題では、ジョブフォルダのグループ化とグループ解除について説明します。

1.インプットフォルダを配置した新しいフロー（Tutorial 2 Flow）を作成します。

2.フローエレメントペインから、インプットフォルダの右側に「ジョブのグループ解除」エレメントを、追加します。

何も設定は必要ありません。ジョブフォルダは、このエレメントを通過してファイルがグループ解除されます。Switch は、自動的にフォルダ構造を記憶して、プライベートデータ（グループ解除された特別な扱い）として扱います。このため、必要に応じて後に統合することが可能となります。

3.次のフローエレメントを追加します。

- 4 つのフォルダエレメント（Sort、PDF、Other files、Collect）
- 1 つの「ジョブの統合」

4.ジョブの統合に関する設定を指定します。グループ解除されたファイルを統合する前に、「グループ解除された」情報を持つファイルを探すためにフローエレメントを設定します。

- a.「ジョブの統合」フローエレメントを選択します。
- b.プロパティペインで、スキームプロパティを選択して、値を「ジョブのグループ解除」に設定します。
- c.プロパティの「サブフォルダ階層レベル」の値を「2」に設定します。

最大 2 つのサブフォルダレベルのジョブフォルダを再構成するように、サブフォルダレベルのプロパティの値を「2」に変更します。元のジョブフォルダに 2 つ以下のレベルが含まれている場合、余分なレベルは無視されます。

5.「ジョブの統合」フローエレメントの右側に「Regroup」というフォルダを追加します。

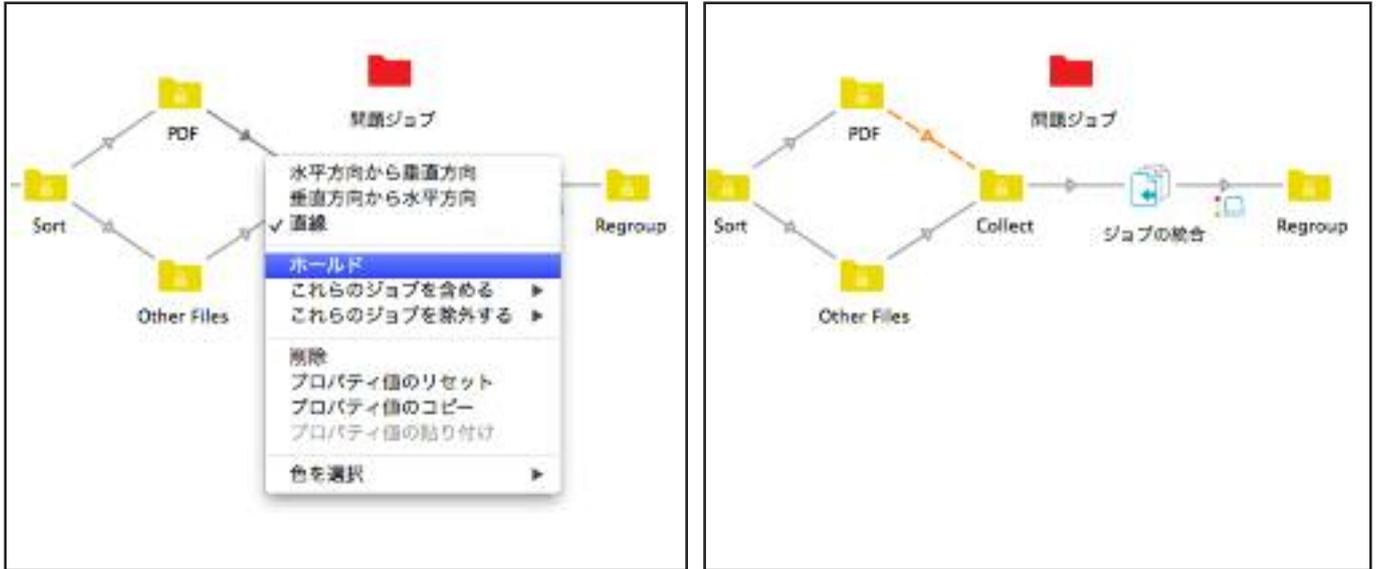
6.全てのエレメントを接続します。(次の図のように)



7.PDF を仕分けらるるように、接続のプロパティを変更します。(練習課題 1 を参照)

8.結果を確認します。

このフローを起動する前に、1箇所の接続をホールドに設定します。ホールドに設定すると、接続線がオレンジ色の点線になります。



a. フローを保存して起動します。

b. Tutorial Job Folder を「Tutorial 2 input」フォルダへドラッグ&ドロップしてジョブフォルダを投げ入れます。

投げ入れるジョブフォルダは次のような構造であることを確認してください。

Tutorial Job Folder	Folder
Images	Folder
Image1.jpg	1827 KB jpg File
Image2.jpg	1827 KB jpg File
Job_Part1.pdf	1913 KB pdf File
Job_Part2.pdf	771 KB pdf File
OtherFile.xlsx	28.4 KB xlsx File

ジョブが処理されると、「PDF」フォルダへ2つのファイルが運ばれ、「Collect」フォルダへ3つのファイルが運ばれます。

c. 各フォルダをクリックして、ジョブペインでジョブフォルダがグループ解除されたことが確認できます。

d. ホールドに設定していた「PDF」と「Collect」フォルダを結ぶ接続線を右クリックして、「リリース」を選択します。

この結果、PDF ファイルが進行してジョブが統合されます。しばらく待ってもジョブが統合されない場合、統合するために必要なジョブが揃っていないことが考えられます。

e. 「Regroup」フォルダを確認します。

元のフォルダ構造が復元されているはずですが。

5.2.2 階層分析フローエレメント



「階層分析」フローエレメントは、異なる階層レベルに格納されているファイルを取り出して処理することができます。また、取り出したファイルの元の位置を記憶することができます。「ジョブのグループ解除」フローエレメントと異なる点は、特定のサブフォルダを指定して特定のファイルだけを取り出すように設定が可能となります。（「ジョブのグループ解除」フローエレメントでは、フォルダ構造内に含まれる全てのファイルを取り出します）

どのように活用するのか

Switch は、「階層分析」フローエレメントに設定されたプロパティに従って、特定のファイルを取り出します。

主なプロパティについて

- 「パス」プロパティ
第 1 階層（ルート）を指定します。Switch がファイルやフォルダの検索を開始しなければならない最上位レベルを示します。
- 「サブフォルダ階層レベル」プロパティ
Switch が、新しいファイルやジョブを検索する位置を、何階層目のサブフォルダに設定するのかを示します。

注意してください。指定されたレベルのサブフォルダに、別のサブフォルダが含まれている場合、そのサブフォルダをジョブとして、処理されます。



Tip :

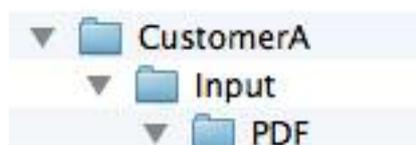
階層レベルの数がわからない場合や、すべてのファイルを個別に処理したい場合、（階層内のレベルに関係なく）高い値をサブフォルダ階層レベルのプロパティへ設定します。（例えば：999）

- 「処理フォルダ」プロパティ
もしすべてのフォルダではなく指定したレベルのみ処理させたい場合、「該当フォルダなし」と設定します。
- 「階層情報を添付」プロパティ
「階層情報を添付」プロパティ値を「はい」に設定しない限り、既定値では、処理済みファイルは、すべて同じアウトプットフォルダへ運ばれます。このプロパティは、階層構造を再作成するために使用することができるように、ジョブの元の位置は、（いわゆる「内部ジョブチケット」）ジョブに格納されることを保証します。

このプロパティは、他のフローエレメントのために利用可能であることをご理解ください。
このメカニズムのおかげで、即座に処理されたジョブが配置されるパスを構築することができます。

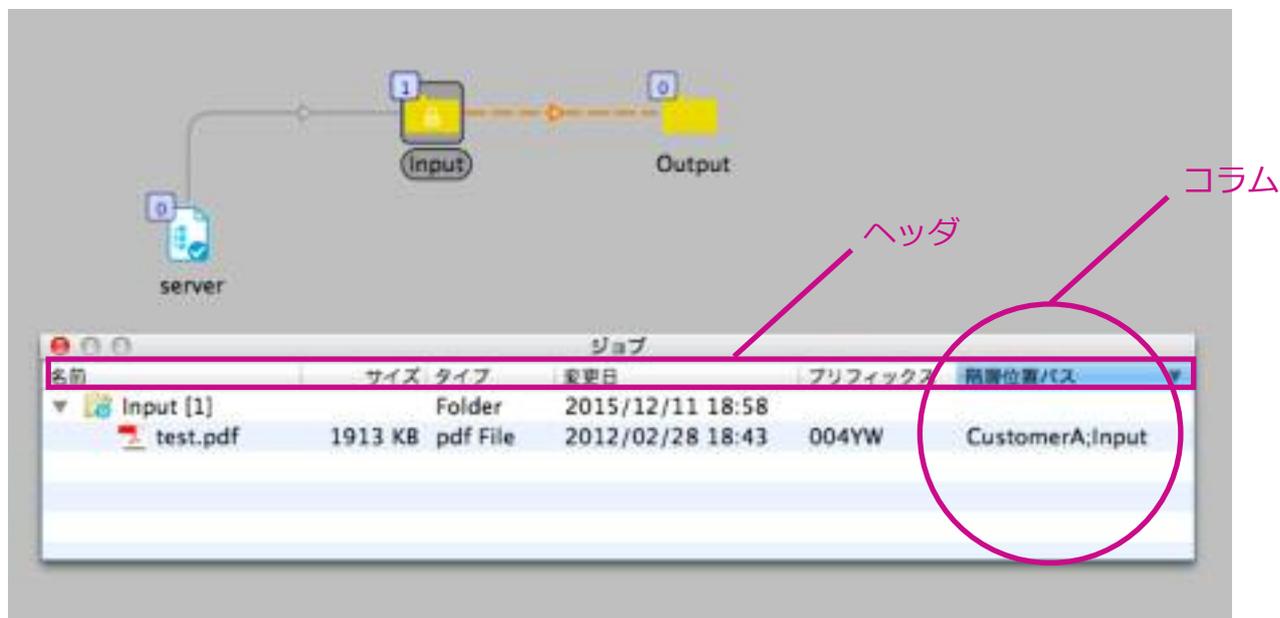
階層位置パス

階層情報は、1 つまたはそれ以上のセグメントから成り立つ、階層位置パスとして格納され、入れ子になったフォルダ構造のサブフォルダの名前をセグメントとして表現します。最上位フォルダは、第 1 セグメントに相当します。例えば、以下のフォルダ構造は、セグメント「CustomerA」、「input」、「PDF」（この順序で）から成り立つ階層位置パスとして保存されます。



**Tip :**

サンプルジョブを使って階層位置パスが格納されていることを確認することができます。階層はジョブペインの「階層」コラムに表示されます。



ジョブペインに「階層位置パス」コラムは、既定値では用意されていません。但し、次の手順によって追加することができます。

1. ジョブペインのヘッダで、右クリックして、コンテキストメニューから「コラムを表示」の中から「カスタム 1」を選択します。ジョブペインに新たに「カスタム 1」コラムが表示します。
2. 「カスタム 1」コラムヘッダを右クリックして、「コラムヘッダを設定」を選択します。
3. 「階層位置パス」と入力します。
4. 「階層位置パス」コラムヘッダを右クリックして、「コラム値を設定」から「変数を含むテキストを指定」を選択します。
5. グループから「Job」を選び、変数から「Hierarchy」を選んで、「変数の挿入」をクリックします。
6. 「OK」ボタンをクリックします。

この手順によって、上図のように、ジョブペインに「階層位置パス」を表示するコラムを追加することができます。

5.2.3 階層保管フローエレメント



「階層保管」エレメントは、サブフォルダ階層の中へ処理済みファイルを格納することを可能とします。(第1階層にすべてのファイルが格納されている、フラットな構造の場合を除く)

このフォルダ構造を受け取ることが可能なアウトプットフォルダは、階層分析エレメントからインプットされたジョブの入ったサブフォルダ階層を受け取ることが可能です。(階層分析エレメント経由のジョブ) または、1つの例として、フローのどの経路(ルート)をたどって来たのかに応じて、異なるサブフォルダ構造を構成するなどが可能です。例えば、処理が成功したすべてのジョブは「OK」というサブフォルダへ運ばれ、処理で問題があったジョブは「Not OK」というサブフォルダへ運ばれるように、処理結果に基づいて、異なるサブフォルダへアウトプットすることができます。

どのように活用するのか

適切な場所にジョブを配置するために必要な情報は、ジョブ内部のジョブチケットから取得されます。

階層情報は、デフォルトでは空になっていますので、元のフォルダ構造を復元するために使用することはできませんが、「階層分析」エレメントの「階層情報を添付」プロパティが「はい」と設定されると、フォルダ構造が作成されます。階層情報が、「階層分析」エレメントに格納されていない場合、オリジナルのフォルダ構造を復元することに使用できません。



Note :

プロパティ「サブフォルダ階層レベル」を設定することを、忘れないでください!

5.2.4 階層パスを設定フローエレメント



「階層パスを設定」エレメントは、階層位置パスを編集することを可能とします。(内部ジョブチケットに含まれる階層位置パス) このエレメントは、新たに「処理した日付」や「結果」などのサブフォルダを作成して、処理済みジョブを運ぶことができます。

どのように活用するのか

このエレメントは、階層位置パスを変更する特殊なアクションを、提供します。階層位置パスの「追加」「削除」「反転」「置換」アクションを実行します。但し、1つの「階層パスを設定」エレメントで、異なるアクションを組み合わせることはできません。したがって、新たな階層位置パスを構築するために、複数の「階層パスを設定」エレメントを組み合わせます。

例えば

- オリジナル階層位置パス (Server¥CustomerX¥Input)
- 新規パス (処理済みファイルを次のような階層構造に変更する) (Server¥CustomerX¥Output¥dd-mm-yy)

この例では、最上階層 (Server (レベル0) と CustomerX (レベル1)) は変更せず、2つのサブレベルを追加します。1つが「Output (レベル2)」となり、2つ目が、可変値 (処理した日付 (レベル3)) となります。

2つの階層パスを追加する必要があるこの例の場合、位置パスを作成するには、下記ようになります。

ステップ 1

•階層パスを追加-その 1

「Input」セグメント（レベル 2）を位置パス情報から削除するのに使われます。結果、（Server¥CustomerX）とします。

プロパティ値

- 「アクション」値は、「削除」を選びます。
- 「開始インデックス」値は、「2」と入力します。（サブフォルダレベル 2）
- 「終了インデックス」値は、「2」と入力します。（サブフォルダレベル 2）

ステップ 2

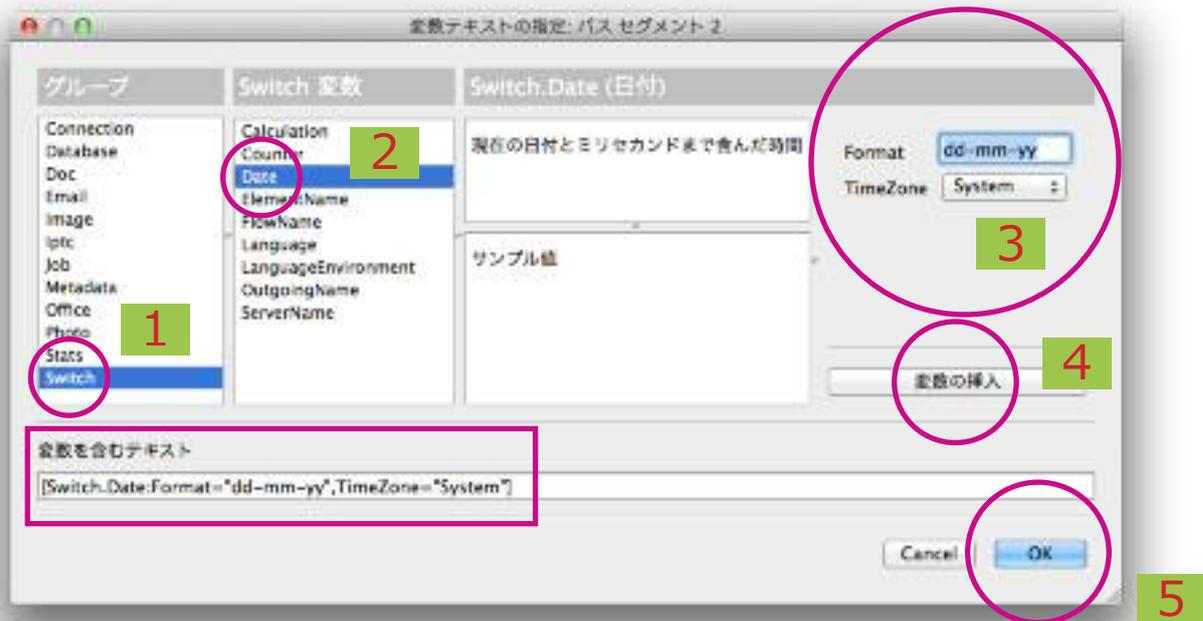
•階層パスを追加-その 2

新たに 2 つのセグメントを追加するために使われます。「Output」（レベル 2）と、「処理した日付」を追加します。

結果、（Server¥CustomerX¥Output¥dd-mm-yy）とします。

プロパティ値

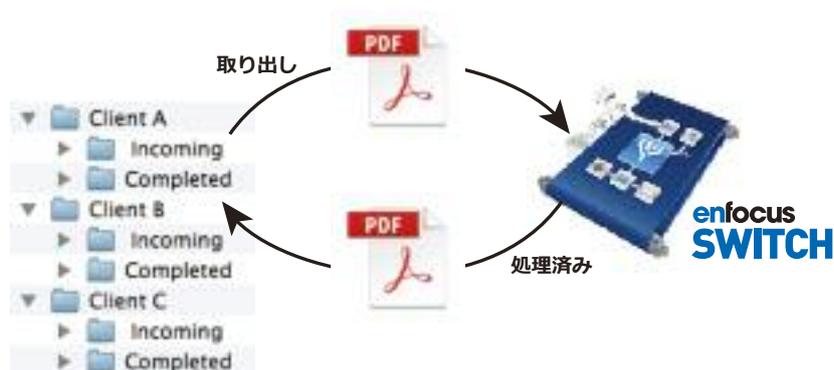
- 「アクション」値は、「最下階層に追加」を選びます。
- 「パスセグメント 1」値は、「Output」と入力します。
- 「パスセグメント 2」値は、プルダウンメニューから「変数テキストの指定」を選択します。変数テキストの指定編集ダイアログにて、変数を指定します。



5.2.5 課題 5 : 外部サーバー側階層からジョブの受信

練習課題

新たにフローを作成します。ファイルを、「Incoming」という名のサブフォルダの中から取り出します。そしてすべての処理済みファイルを、クライアント名のフォルダ配下に「Completed」という名のサブフォルダの中に格納します。



Note :

このようなタイプのフローは、名前が可変するフォルダへ仕分けするのにとても便利です。(例えば、Client A、Client B など) もしも、新たにクライアントフォルダ (Client D など) が追加されても、フローの設定を変更することなく、ジョブは正しく仕分けされます。

テスト用ファイル

テスト用ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.enfocus.com/manuals/Extra/Switch/Switchtutorial.zip>

解決策

- 次の手順書に従って作成してみる。
- ダウンロードした ZIP に含まれている「Tutorial 3A Flow.sflow」を「フロー」メニューから「フローの読み込み」を選び、読み込みます。作成したフローと比較してみてください。
- どのようにフローが作られたのかを解説した動画を参考にしてください。
<http://youtu.be/-nu27qeXR-A>

5.2.5.1 課題 5 : フロー作成手順

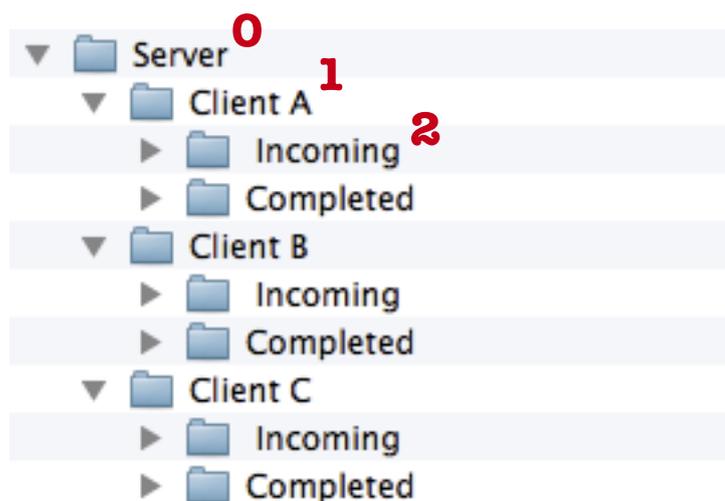
この練習課題では、次のようなフローを作成する手順を説明します。

- クライアント用のインプットフォルダで認識された、新しいジョブまたはジョブフォルダ。
(この練習課題では、(Server¥Client¥Incoming))
- ジョブは、Switch で処理されます。
- 処理済みのファイルは、クライアントへ確認用として次のフォルダへ戻されます。(Server¥Client¥Completed)

1. 「Tutorial 3」フォルダをデスクトップに作成します。
これは、ネットワークサーバーのフォルダ構造をシミュレートするために使用されます。
2. 新しいフロー (Tutorial 3A Flow) を作成します。
3. フローエレメントペインから、「階層分析」エレメントを、空白なキャンバスへ追加します。
4. 階層分析エレメントを選び、プロパティペインで、階層フローエレメントの名前の変更と実フォルダへのパスを指定します。

階層サブフォルダレベルの指定が重要なポイントとなります。Switch によって、最上位レベル (レベル 0) から、サブレベル数がチェックされます。

階層レベル



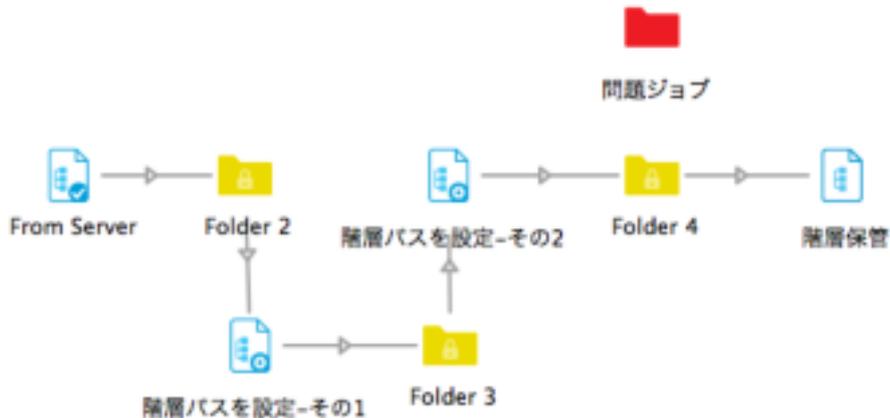
この練習課題では、Switch は、各クライアント用フォルダ (Client A、Client B、Client C など) の配下に位置する「Incoming」フォルダを監視してジョブを取り出します。

- a. 「階層分析」エレメントの名前を変更します。「From Server」という名前へ変更します。
- b. プロパティのパスで、ポップアップメニューから「フォルダを選択」を選び、最上位のディレクトリを指定します。デスクトップに位置する「Tutorial 3」フォルダを指定します。
- c. プロパティのサブフォルダ階層レベルで、「2」と入力します。Switch は、「Tutorial 3」からのレベル 2 に位置するサブフォルダを監視します。
- d. レベル 2 に位置して、なおかつ、「Incomin」というテキストを含んだ名前のフォルダのみ、監視するように設定します。

1. プロパティの「調整 (ルール 1)」で、「次の名前ではないフォルダを含めない」に設定します。
2. プロパティの「調整 (ルール 1)」の「フォルダ名」で「フォルダパターン」の指定を選び、「incomin*」と入力します。
3. プロパティの「調整 (ルール 1)」の「階層レベル」を、「2」と設定します。

- e.プロパティの「階層情報を添付」で、「はい」に設定します。これにより Switch は、どこからジョブを取り出したのか記憶します。この情報は、Switch 内部で、プライベートデータ（メタデータ）としてジョブに付け加えられます。
- f.プロパティの「階層情報を添付」の「含めるサブフォルダ階層レベル」の値を、「2」と設定します。Switch が、ファイルを監視するレベルと同じレベルに設定します。

5.フローエレメントを追加し、それらを接続することにより、以下のようなフローとなります。



6.処理済みファイルをアウトプットする新しい位置を指定します。



Note :

「階層パスを設定」フローエレメントは、オリジナルのパスを基に、新たに位置パスを構築するのに使います。例えば、オリジナルのパス：(Server¥Client¥Incoming)、新たなパス：(Server¥Client¥Completed)

a.プロパティペインで、「階層パスを設定-その 1」に対するプロパティを設定します。

- 1.オリジナルの位置パス情報から「Incoming」セグメントを削除するため、プロパティの「アクション」値は、「削除」を選びます。
- 2.「開始インデックス」値を、「2」、「終了インデックス」値を「2」と入力してサブフォルダレベル 2 を削除します。

b.プロパティペインで、「階層パスを設定-その 2」に対するプロパティを設定します。

- 1.新たに 1 つのセグメントを追加するために使われます。プロパティの「アクション」値は、「最下階層に追加」を選びます。
- 2.新たなセグメント追加のため、「パスセグメント 1」をクリックします。ポップアップメニューから「入力値」を選択します。
- 3.値は、「Completed」と入力します。

7.「階層保管」エレメントのためのプロパティを設定します。

a.「パス」を、「オリジナルのインプットフォルダ」に指定します。

b.サブフォルダ階層レベルを「3」にします。

c.オリジナルのファイル名へ戻すため、「ユニーク名を削除」の値を「はい」にします。Switch が自動的にファイル名の先頭に（プリフィックス）付加していたユニーク ID を、削除します。

d.同名のファイルが運ばれてきた場合の対処方法として、「重複」プロパティ値に「バージョン番号を追加」「上書き」など選択します。

8.作成したフローの動作を確認します。

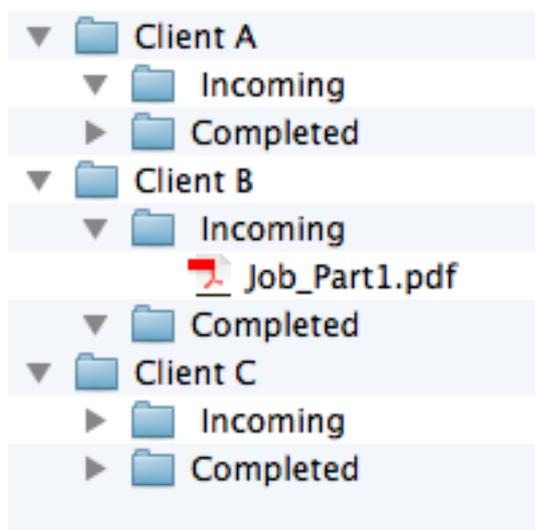
a.フローを保存して、起動します。

b.インプットフォルダの1つに新たなジョブを投げ込みます。(例えば、(Server¥Client B¥Incoming)へジョブを投げ込みます)ここへ投げ入れるジョブは、シングルファイルまたはフォルダどちらでも対応できます。

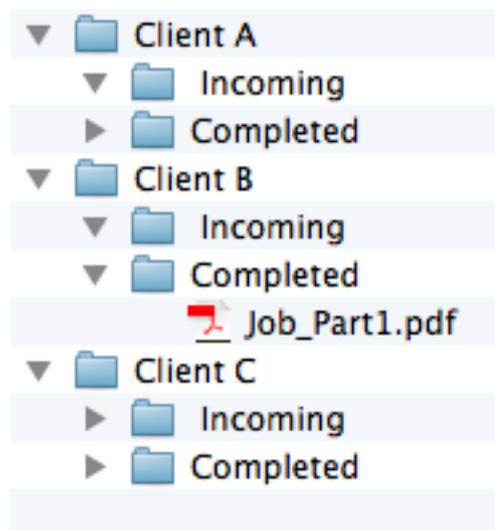
c.アウトプットを確認します。

アウトプットは、同じクライアント用のフォルダに、新たにサブフォルダが追加されるはずです。(Server¥Client B¥Completed)

■ インプットジョブ



■ アウトプットジョブ



Note :

もし、ファイルを受信する目的で、Secure FTP Serverへアクセスする必要がある場合、手順は同様です。しかし、「FTP受信」(階層分析の代わりに)と、「FTP送信」(階層保管の代わりに)を使います。

5.3 階層情報を保持したフローの接続

Switchは、オリジナルの階層構造を保持して、2つのフロー(別々の目的のフロー)を結び合わせることが可能ですので、2つのフローで別の処理を実行して、最終的にオリジナルの位置パスへ戻すこともできます。これは、例えば、画像を処理するワークフローを通り、次に処理済み画像を含むレイアウトドキュメントからPDFを生成するケースなどに、とても役立ちます。

どのように活用するのか

2つのフローを結び合わせるには、

- 1つ目のフローのアウトプットフォルダと、2つ目のフローのインプットフォルダをリンク(関連づけます)します。

- 1つ目のフローのアウトプットフォルダの「ユニーク名を削除」プロパティ値を「いいえ」に設定します。この方法で、1つ目のフローで付加された、ジョブのユニークIDを保持したまま、2つ目のフローへ渡ります。1つ目のフローで、アウトプットフォルダへ運ばれた処理済みのファイルは、2番目のフローによって、即座に扱われます。

5.3.1 課題 6 : 階層情報を他のフローへ引継ぐ

練習課題

先の練習課題で作成した 2 つのフローを使います。(flow 3A と flow 2)

- 1 つ目のフローでは、階層情報を記録して修正します。
- 1 つ目のフローの結果、2 つ目のフローにおいて、適切なフォルダへファイルを戻すために、この階層情報を使います。

テスト用ファイル

テスト用ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.enfocus.com/manuals/Extra/Switch/Switchtutorial.zip>

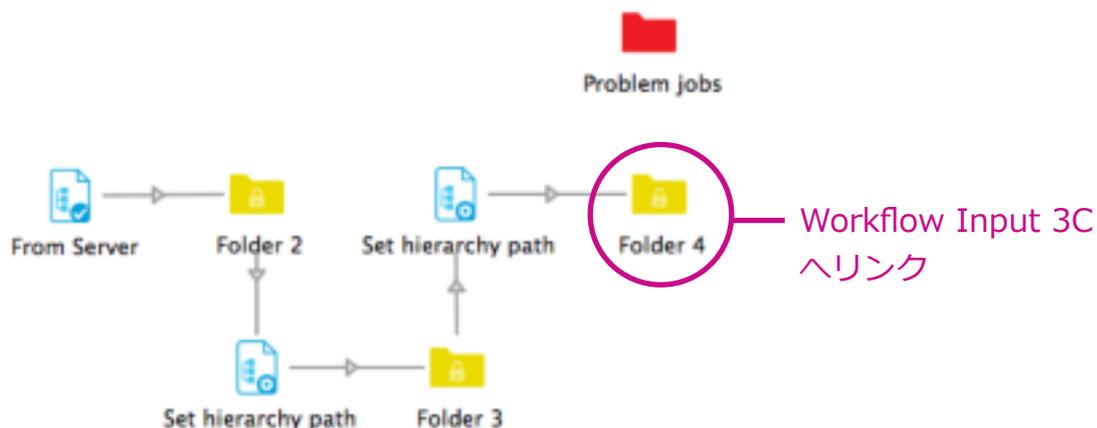
解決策

- 次の手順書に従って作成してみる。
- ダウンロードした ZIP に含まれている「Tutorial 3C Flow.sflow」を「フロー」メニューから「フローの読み込み」を選び、読み込みます。作成したフローと比較してみてください。
- どのようにフローが作られたのかを解説した動画を参考にしてください。
<http://youtu.be/-nu27qeXR-A>

5.3.1.1 課題 6 : フロー作成手順

この練習課題では、2 つのフロー間で、どのように階層情報を受け渡すのかを説明します。1 つ目のフローの「アウトプットフォルダ」から 2 つ目のフローの「インプットフォルダ」へリンクします。最終的に「階層保管」エレメントへ運ばれるフローを作成する手順を説明します。

1. 「Tutorial 3A Flow」を複製して、「Tutorial 3B Flow」と名前を変更します。
2. 「Tutorial 2 Flow」を複製して、「Tutorial 3C Flow」と名前を変更します。
3. 「Tutorial 3B Flow」から「階層保管」(Archive hierarchy) フローエレメントをコピーして、「Tutorial 3C Flow」にペーストします。
 - a. 「Tutorial 3B Flow」の「階層保管」(Archive hierarchy) を選択します。
 - b. 右クリックして「コピー」を選択します。(すべてのプロパティ設定値がコピーされます)
 - c. 「Tutorial 3C Flow」へ切り替えます。キャンバス上の空欄で、右クリックして「ペースト」を選択します。
 - d. ペーストした「Archive hierarchy」を、フローの終端付近に配置してください。
4. 「Tutorial 3B Flow」へ切り替えます。「Archive hierarchy」フローエレメントを、削除します。
5. 「Archive hierarchy」を削除したことによって終端となった「Folder 4」を、外部フォルダへリンクします。外部フォルダ「Workflow Input 3C」。このフォルダを「Tutorial 3B Flow」がリンクします。
 - a. 「Folder 4」フォルダを選択します。
 - b. プロパティペインの「パス」をクリックします。
 - c. 「フォルダを選択」を選びます。
 - d. デスクトップに位置する「Workflow Input 3C」フォルダを指定します。



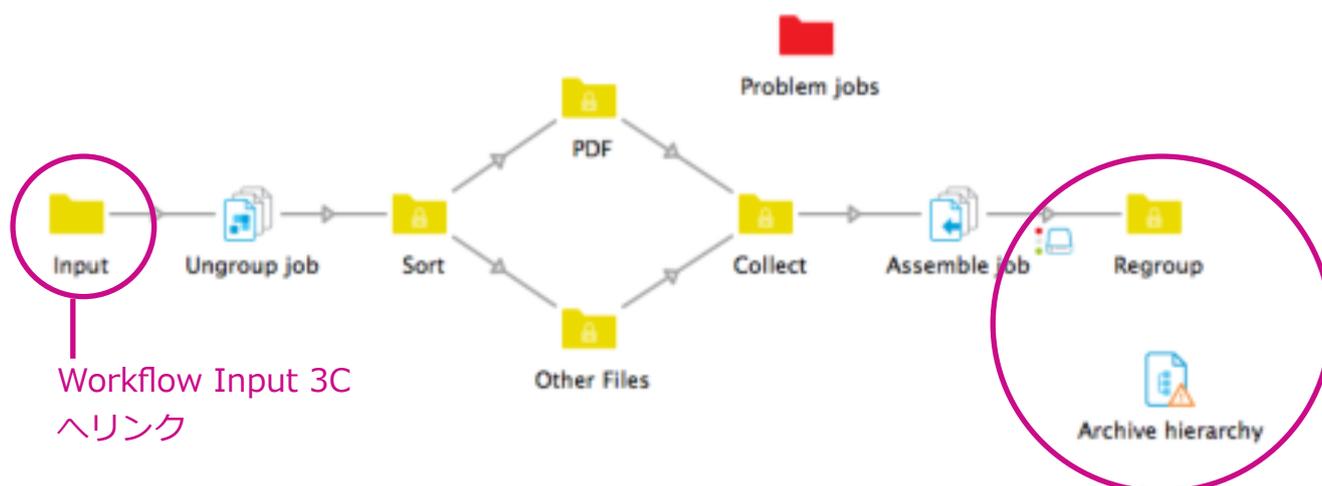
6. 「Folder 4」のプロパティペインで、「Workflow Input 3C」と名前を変更して、「ユニーク名の削除」を「いいえ」に設定します。ユニーク ID を削除することによって Switch は、ファイルから階層情報のようなプライベートデータを取り除いてしまいます。

7. 「Tutorial 3C Flow」へ切り替えます。

8. 「Tutorial 3B Flow」のアウトプットフォルダ「Workflow Input 3C」から、「Tutorial 3C Flow」のインプットフォルダ「Input」へリンクします。

- 「Input」フォルダを選択します。
- プロパティペインの「パス」をクリックします。
- 「フォルダを選択」を選びます。
- デスクトップに位置する「Workflow Input 3C」フォルダを指定します。

9. 「Regroup」フォルダと「Archive hierarchy」（Tutorial 3B Flow からコピーしてきたエレメント）間を接続してください。

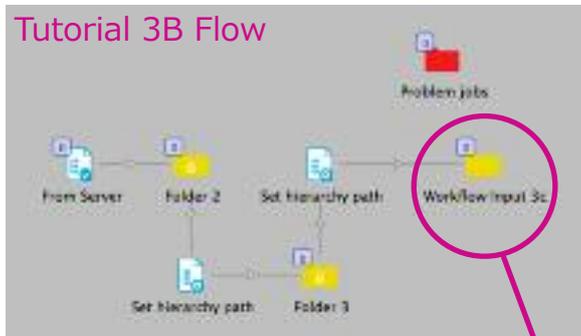


10.動作の確認をします。

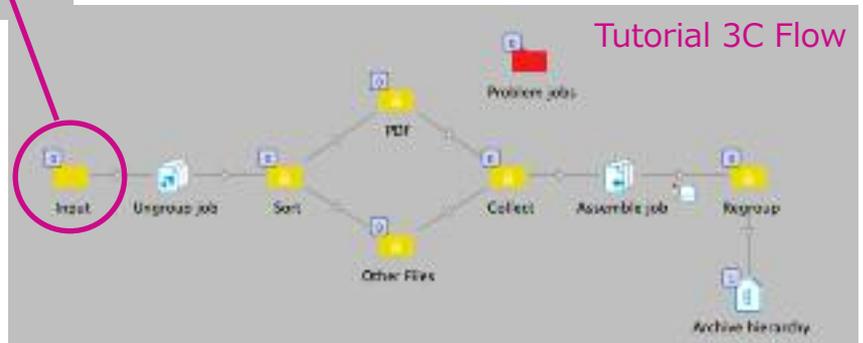
- a. フローを保存して、起動します。
- b. 「Tutorial Job Folder」を「Client B」配下の「Incomig」フォルダの中へ投げ込みます。

問題なく成功した場合、処理されたジョブは、「Client B」配下に「Completed」という新たなサブフォルダへ運ばれます。
合計処理時間 20～30 秒程度となります。

Tutorial 3B Flow



Tutorial 3C Flow



6. Switch の周辺情報

Switch の関連するプログラムの紹介。Switch は、5 つのアプリケーションコンポーネントから成り立っています。「Switch Server」「Switch Designer」「Switch WebServer」「SwitchScripter」「SwitchClient」。「SwitchClient」以外の 4 つのコンポーネントは、switch のインストールプログラムを実行してインストールされます。「SwitchClient」だけは、別のインストールプログラムとなっています。

6.1 Switch のアプリケーションコンポーネント

Switch は、複数のアプリケーションで機能しており、それぞれ異なる機能を持っています。

•Switch Server

Switch Server は、Switch のコアエンジン (Core Engine) です。フローの実行をバックグラウンドで処理します。Switch Designer の要求に応じて、自動的に起動や終了を行います。Switch Designer を終了後も Switch Server を継続して起動し続けることも可能です。Switch Server はユーザインターフェイスを持ちません。しかし、Switch について話す時は Switch Server を指していることが多いです。(特にフローを実行する時)

•Switch Designer



Switch Designer は、フローをデザイン、実行、監視する包括的なインターフェイスを提供します。Switch Designer は Switch Server と連絡をとって動作を管理します。

•SwitchScripter



SwitchScripter は、スクリプト開発環境を提供します。Switch で使用するためのスクリプトパッケージの作成および検証が可能です。Switch をインストールすると、SwitchScripter もインストールされます。SwitchScripter は通常 Switch Designer と同じコンピュータで実行します。

•SwitchClient



SwitchClient は、別のコンピュータからジョブを監視および送信する簡易アプリケーションです。SwitchClient は別のコンピュータにインストールされるため、個別のインストーラとなります。※Switch をインストールしても SwitchClient はインストールされません。

6.2 SwitchClient について

SwitchClient は、別のコンピュータからジョブを監視および送信する簡易アプリケーションです。SwitchClient は別のコンピュータにインストールされるため、個別のインストーラとなります。

SwitchClient は、次の処理に対応します：

- インターネットまたはローカルネットワーク上の Switch Server と接続します。
- フロー内の送信ポイントへジョブを送信します。
- フロー内のチェックポイントのジョブを表示/編集します。
- 送信したジョブの進行状況を表示します。
- 接続した Switch のログメッセージを表示します。

SwitchClient を使用する利点は次のとおりです：

- 共有フォルダをネットワーク上に作らなくてもジョブの送信や確認ができます。
- クロスプラットフォーム（Mac と Windows）への対応が簡単にできます。
- ジョブの進行状況をリモートで確認できます。（SwitchClient から送信されていないジョブも監視可能）
- フロー内の適切な位置にジョブを送信できます。
- ジョブ送信時にジョブチケットデータを含めることができます。
- 目視確認が必要な作業を管理できます。
- ローカルネットワーク上の別マシンからジョブの概要や実行ログを参照できます。

6.3 SwitchScripter について

SwitchScripter は、Switch 製品に含まれるスクリプト作成環境です。個別のアプリケーションとしてインストールされます。

主に次の機能があります：

- Switch スクリプトパッケージと内容の作成
- 検証用に Switch スクリプトの API をエミュレート
- 検証用に入出力条件を設定

配布とライセンス

SwitchScripter は Switch の一部であり、Switch インストーラを実行すると、個別のアプリケーションとしてインストールされます。SwitchScripter はライセンスキーがありません。Switch の正規ユーザは SwitchScripter を利用できます。

6.4 Switch Watchdog について

Switch Server は、Switch Server の状況を監視するために設計されたアプリケーションである Switch Watchdog によって、実行開始、終了されます。Switch Watchdog はインターフェイスを持たず、Windows サービスとしてセットアップされた Switch Watchdog 以外は、Switch Designer からの指示を受けて実行します。Windows サービスとしてセットアップされた Switch Watchdog の場合、ユーザーがログインしたタイミングで自動的に実行開始します。または、Switch Designer を終了する際に、処理を継続するように指示した場合、継続実行します。

6.5 Switch WebServer について

Switch WebServer は、Switch Designer を起動することなく、リモートからログメッセージを確認するために利用できます。Web ブラウザを介して Switch Server に接続することができます。Switch WebServer は、Switch にインストールされ、バックグラウンドで自動的に起動されます。

6.6 各モジュールがサポートする機能一覧

機能	Switch Core Engine	Configurator module	Metadata module	Database module	Scripting module	SwitchClient module
基本						
接続 (Connection)	✓					
フォルダ (Folder)	✓					
問題ジョブ (Problem jobs)	✓					
階層分析 (Submit hierarchy)	✓					
階層保管 (Archive hierarchy)	✓					
階層パスを設定 (Set hierarchy path)	✓					
ジョブ分割 (Job dismantler)	✓					
ジョブのグループ解除 (Ungroup job)	✓					
マルチジョブの分割 (Split Multi-job)	✓					
ジョブの統合 (Assemble job)	✓					
一般アプリケーション (Generic application)		✓				
コマンドを実行 (Execute command)		✓				

機 能	Switch Core Engine	Configurator module	Metadata module	Database module	Scripting module	SwitchClient module
ツ ー ル						
プリフライトのステータスで仕分け (Sort by preflight state)	✓					
アーカイブ (Archive)	✓					
解凍 (Unarchive)	✓					
PDF を分割 (Split PDF)	✓					
PDF を統合 (Merge PDF)	✓					
ジョブのホールド (Hold job)	✓					
ジョブの挿入 (Inject job)	✓					
ジョブのリネーム (Rename job)	✓					
ファイルタイプ (File type)	✓					
ジョブの仕分け (Sort job)	✓					
ジョブ情報のログ (Log job info)	✓					
ジョブ内のファイル仕分け (Sort files in job)	✓					
XSLT 変換 (XSLT transform)	✓					
ゴミ箱 (Recycle bin)	✓					

機能	Switch Core Engine	Configurator module	Metadata module	Database module	Scripting module	SwitchClient module
スクリプティング						
スクリプトエレメント (Script element)					✓	

コミュニケーション						
HTTP 要求 (HTTP request)	✓					
FTP 受信 (FTP receive)	✓					
FTP 送信 (FTP send)	✓					
メール受信 (Mail receive)	✓					
メール送信 (Mail send)	✓					
送信ポイント (Submit point)						✓
チェックポイント (Checkpoint)						✓
メールチェックポイント (Checkpoint via mail)						✓
ジョブパック (Pack job)	✓					
ジョブパック開封 (Unpack job)	✓					
受信確認の監視 (Monitor confirmation)	✓					

機能	Switch Core Engine	Configurator module	Metadata module	Database module	Scripting module	SwitchClient module
コンフィグレータ						
サードパーティアプリケーション (Various configurators)		✓				

メタデータ						
XML 抽出 (XML pickup)			✓			
JDF 抽出 (JDF pickup)			✓			
XMP 抽出 (XMP pickup)			✓			
XMP 挿入 (XMP Inject)			✓			
オpaque抽出 (Opaque pickup)			✓			
メタデータ書き出し (Export metadata)			✓			

データベース						
データベース接続 (Database connect)				✓		

レガシー						
圧縮 (レガシー) (Compress legacy)	✓					
圧縮解凍 (レガシー) (Uncompress legacy)	✓					

7. Switch 2017 追加機能

ここでは、新たに追加した機能をご紹介します。

7.1 New in Switch 2017

Switch 2017 に、以下の新しい機能を追加しました。

- ・新機能 Switch Web Portal は、Switch の Web ベースの機能にアクセスできる新しい入口に相当します。Switch Web Portal では、新しいバージョンの SwitchClient Module の追加ライセンスを取得している場合、ログメッセージを閲覧したり、ジョブを送信して確認することができます。
- ・従来の独立したアプリケーションとは異なり、新しい Web ベースの SwitchClient は、使いやすい UI を提供します。Switch 2017 は、古い SwitchClient と新しい SwitchClient の両方をサポートします。デフォルトでは、Web ベースのバージョンを使用するように構成され、環境設定を変更することで古いバージョンを使用するように構成されています。この環境設定はユーザーが変更することができます。環境設定内部コミュニケーション - ジョブクライアントのタイプを参照してください。
- ・SwitchClient ライセンスを購入した場合、(Switch Web Portal ではなく) カスタムジョブクライアントを介して Switch Server にアクセスする権利があります。独自のジョブクライアントを構築する場合は、新しいテクノロジー REST API で機能する、クライアントアプリケーションとの統合を容易にした Switch Web Service を使用します。新しい REST API は完全に文書化されており、エンフォーカス社のウェブサイトで利用可能です。

<http://www.enfocus.com/manuals/DeveloperGuide/WebServices/17/index.html>

- ・Switch Web Portal に移行され、従来のメッセージ表示機能を廃止しました。また、ユーザーおよびグループの管理コンソールが、Switch Web Portal 仕様に変更しました。
- ・Switch 2017 以降は、完全に 64-bit アプリケーションとなり、64-bit OS でのみ動作します。これに伴い、データベースモジュールユーザーは、ODBC 接続用の ODBC Driver を 64-bit 用の ODBC Driver に変更する必要があります。
- ・Switch Proxy を廃止します。サードパーティ製の Proxy (HTTP) を Switch Core Engine に組み込み、これにより Proxy 機能をサポートします。

7.2 New in Switch 2017 update 1

Switch 2017 update 1 に、以下の新しい機能を追加しました。

- ・Switch Web Portal を機能拡張。旧デスクトップ SwitchClient アプリケーションのすべての機能を Switch Web Portal に実装。例えば、チェックポイントに停滞しているジョブを他のジョブへ置き換えたり、レポート参照が許可されているチェックポイントでは、レポートファイルのダウンロード可能。他のユーザーが編集できないようにジョブをロックするなど、従来の機能をすべて移行しました。
- ・ジョブやメッセージの一覧表示で、カラムサイズの伸縮機能や移動機能を追加。
- ・フローエレメント接続線で設定可能な「ファイルタイプの指定」条件設定の項目に、「.psb」(Photoshop Big File) と「.idml」(InDesign Markup File) の 2 つのファイル形式を追加しました。

7.3 New in Switch 2017 update 2

Switch 2017 update 2 に、以下の新しい機能を追加しました。

- ・ Switch 2017 update 2 は、公式に macOS 10.13 (High Sierra) をサポートします。

- ・ Switch Web Portal へアクセスするために推奨するブラウザ。

Chrome

Firefox

Edge

Safari

- ・ ユーザーエクスペリエンス、ユーザーインターフェイスの改善。

- ・ メタデータ入力ダイアログを大幅に改善

ジョブ送信ポイント、チェックポイントにて、メタデータ入力フォームを大型化してデザインを一新したダイアログを表示します。また、ダイアログの右上に位置する矢印マークをクリックすることで、ダイアログのサイズを変更できます。

- ・ チェックポイントで、出力先の情報をより詳細に表示するよう改善しました。

- ・ 新たにコンテキストメニューを追加

メッセージ表示ウィンドウで、右クリックするとよく使う機能へ簡単にアクセスできるようにコンテキストメニューを表示します。

メッセージの書き出し/メッセージのクリア/表示のリセット

- ・ Switch Designer (フロー設計ウィンドウ) の機能強化

- ・ キャンバス上をダブルクリックするとフォルダ追加

キャンバス上をダブルクリックするとより簡単に新しいフォルダが追加されます。

- ・ お気に入りに入っているエレメントに対してキーボードショートカットを割り当てる

フローエレメントペインのお気に入りに追加されているエレメントは、キーボードショートカットを使ってキャンバスへ追加することができます。

Mac : cmd + 「数字の 1-9」

Windows : CTRL + 「数字の 1-9」

キーボードショートカットを使い追加したエレメントは、キャンバスの中央に配置されます。

- ・ フォルダと接続線のためのカラーピッカー

新たに追加したカラーエディタは、フォルダや接続線に対するカラーを編集することができます。

- ・ メール送信のための環境設定にテスト機能を追加

メール送信のために正しい値が設定できているのかテストするためのボタンを新しく追加しました。

- ・ フローの自動保存機能

フロー起動時に、フロー設計を自動的に保存する機能を、環境設定に追加しました。

- ・ JavaScript 記述の JSON をサポート

スクリプトを記述するために、JSON.stringify()と JSON.Parse()を使えるようになりました。

- ・ HTTP リクエストタイプの HEAD method をサポート

HTTP リクエストツールおよび JavaScript API の両方で、HEAD method タイプをサポートしました。

リクエストタイプの選択肢

HEAD
GET
PUT
POST
DELETE

- ・ コンフィグレータのインストールとアップデート機能の改善

これまでのバージョンでは、コンフィグレータのインストールおよびアップデートの後に Switch を再起動する必要がありました。Switch 2017 update 2 以降は、再起動を必要としなくなります。

実行中のフローで使っているコンフィグレータがアップデートされたとき、フローは自動的に停止して再起動を実行します。今後、「Pack-Manager」はコンフィグレータのブラウザ管理とダウンロードのために使います。

「ヘルプ」メニューにダウンロードコンフィグレータメニューを追加、「PackManager」ウインドウ下部に、コンフィグレータのダウンロードを実行するための「ダウンロード」ボタンを追加しました。

ダウンロードが完了した「*.enfpack」ファイルをダブルクリックすると、インストールが開始します。その後、そのコンフィグレータを使っているフローが自動的に停止して再起動が実行されます。